

学術コミュニケーションの動向

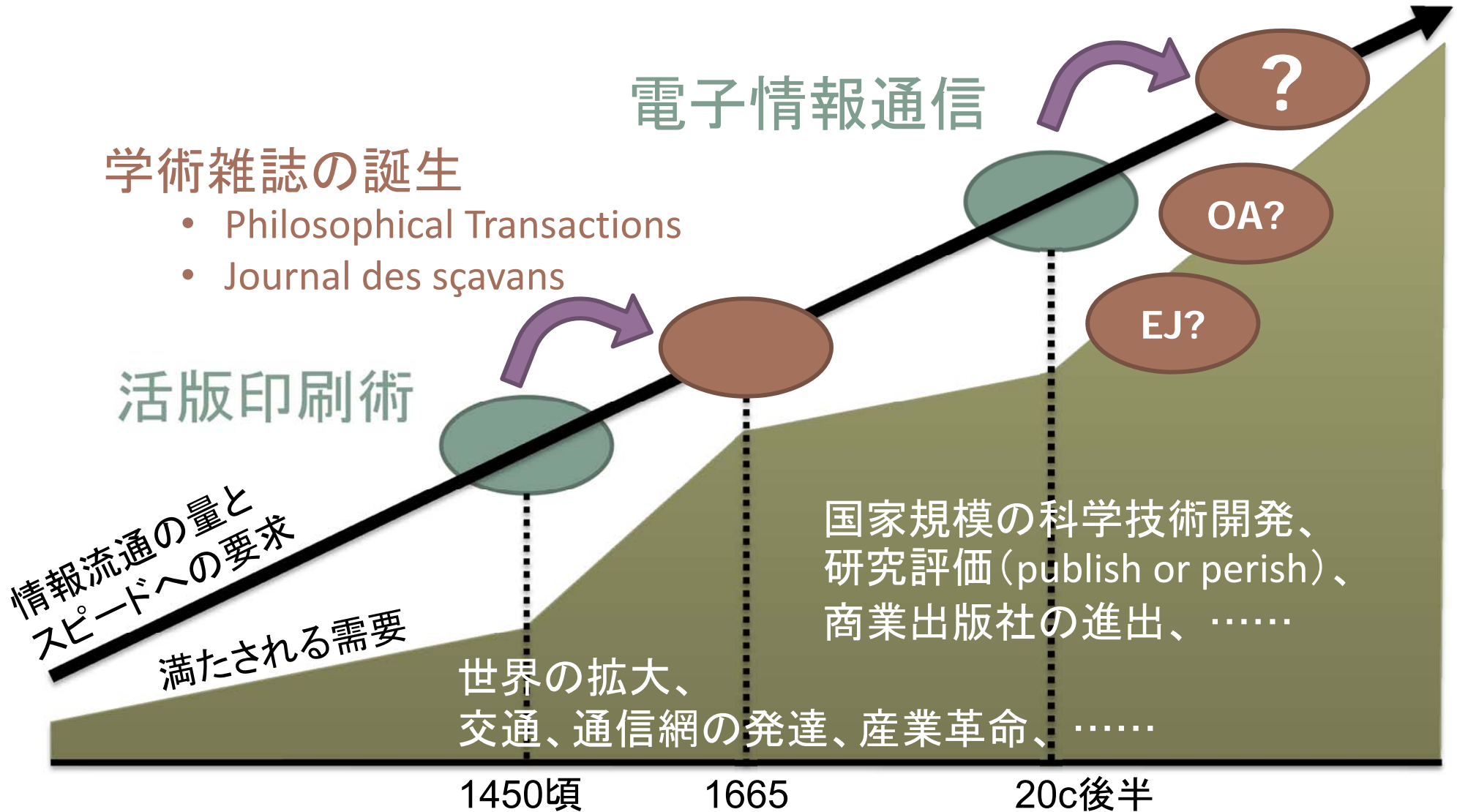
杉田茂樹

(千葉大学学術コンテンツ課長)

平成25年10月3日、11月7日

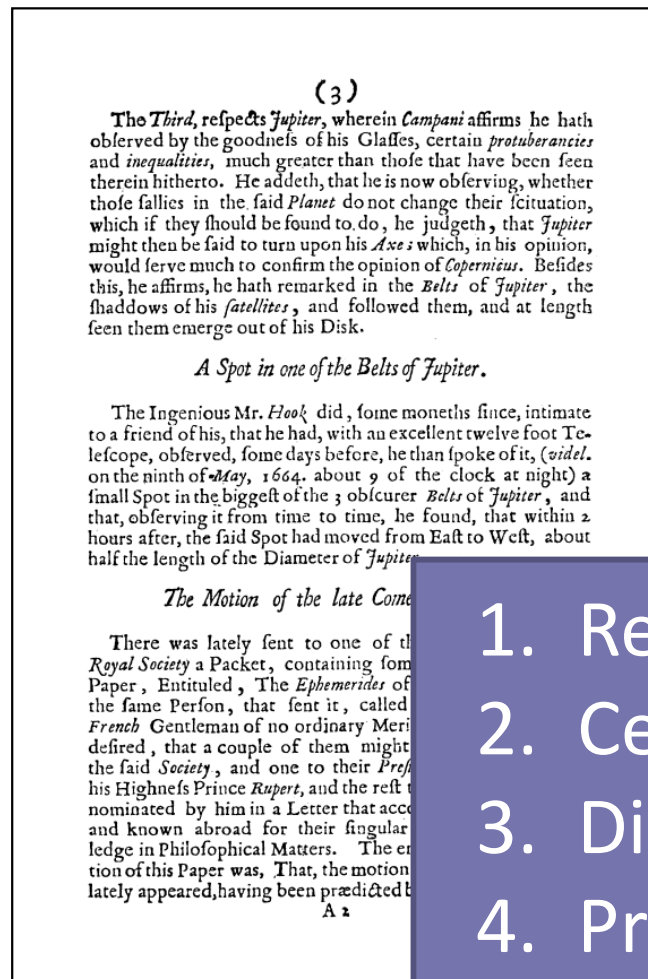
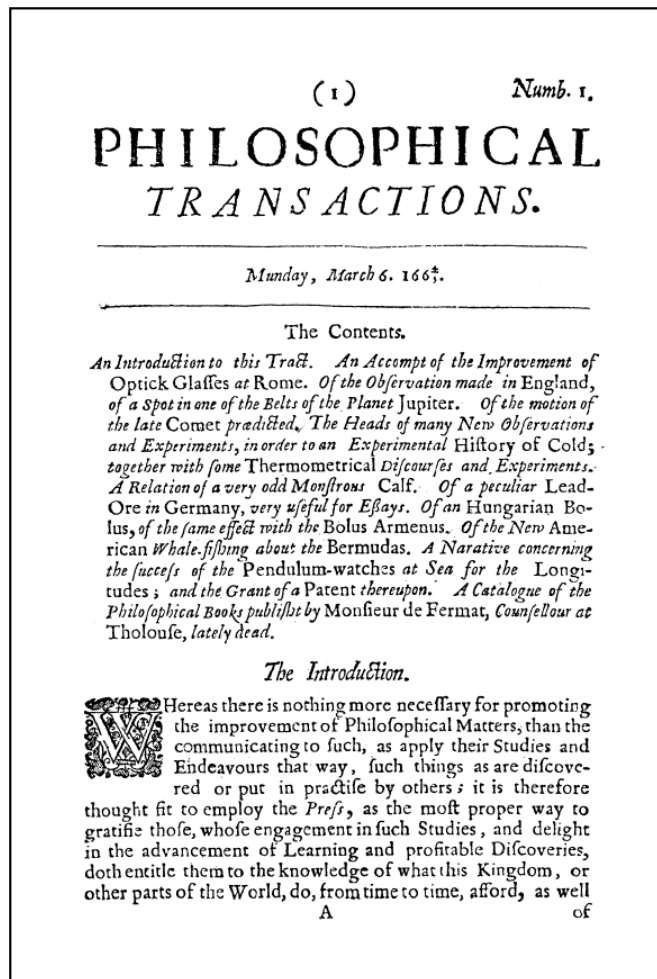
大学図書館職員短期研修

本日の内容



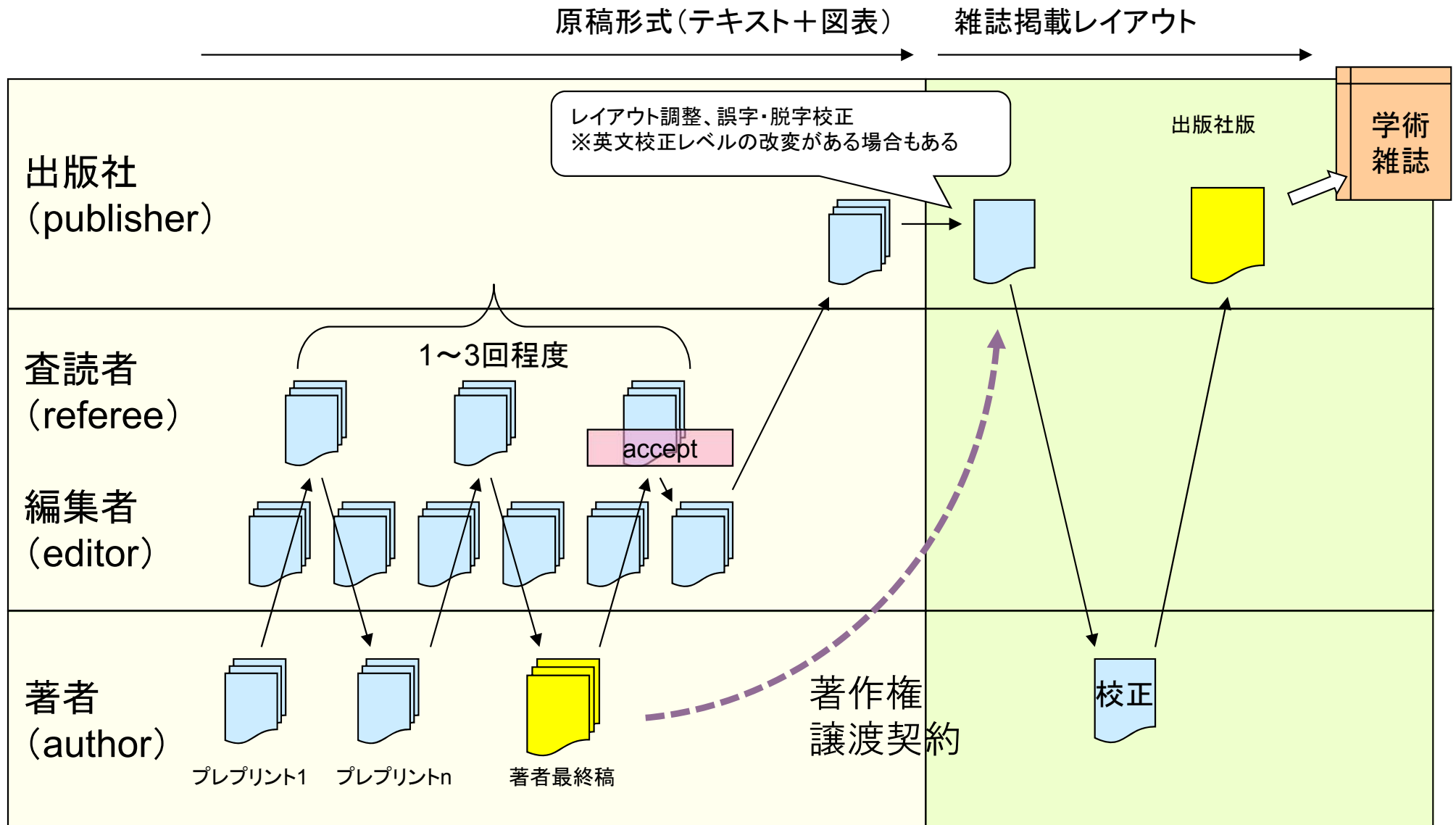
學術雜誌

Philosophical transactions / Royal Society of London. -- 1 (1665)-65 (1775). -- London



1. Registration
2. Certification
3. Dissemination
4. Preservation

論文執筆から学術雑誌掲載まで



学術雑誌(等)評価

- Impact Factor
 - 特定の1年間において、ある特定雑誌に掲載された「平均的な論文」がどれくらい頻繁に引用されているかを示す尺度
 - Journal Citation Reports (JCR)(トムソン・ロイター社)による
- その他の評価指標
 - 5-Year Impact Factor
 - 直近5年間の掲載論文によって算出
 - Eigen Factor
 - 重要誌から引用されると高得点
 - h-Index(※雑誌評価でなく研究者評価)
 - その研究者が公刊した論文のうち、被引用数がh以上であるものがh以上あることを満たすような数値
 - (例)h指数が30である研究者は、被引用数30以上の論文が少なくとも30編あることを示す。

ISI Web of KnowledgeSM

Journal Citation Reports[®]

WELCOME HELP

Journal Summary List

Journals from: **subject categories BIOLOGY** VIEW CATEGORY SUMMARY LIST

Sorted by: **Impact Factor** SORT AGAIN

Journals 1 - 20 (of 84) [1 | 2 | 3 | 4]

MARK ALL UPDATE MARKED LIST *Ranking is based on your journal*

Mark	Rank	Abbreviated Journal Title <i>(linked to journal information)</i>	ISSN	Total Cites	Impact Factor	5-Y Imp Fac
<input type="checkbox"/>	1	PLOS BIOL	1544-9173	20579	11.452	13.
<input type="checkbox"/>	2	BIOL REV	1464-7931	5678	9.067	11.
<input type="checkbox"/>	3	Q REV BIOL	0033-5770	3153	7.727	6.
<input type="checkbox"/>	4	PHYS LIFE REV	1571-0645	549	7.208	5.
<input type="checkbox"/>	5	PHILOS T R SOC B	0962-8436	23973	6.401	7.
<input type="checkbox"/>	6	BMC BIOL	1741-7007	2193	5.750	5.
<input type="checkbox"/>	7	FASEB J	0892		5.712	6.
<input type="checkbox"/>						5.
<input type="checkbox"/>						4.
<input type="checkbox"/>						6.
<input type="checkbox"/>						3.
<input type="checkbox"/>						4.
<input type="checkbox"/>						3.
<input type="checkbox"/>	14	BIOL DIRECT	1745-6150	979	4.017	3.

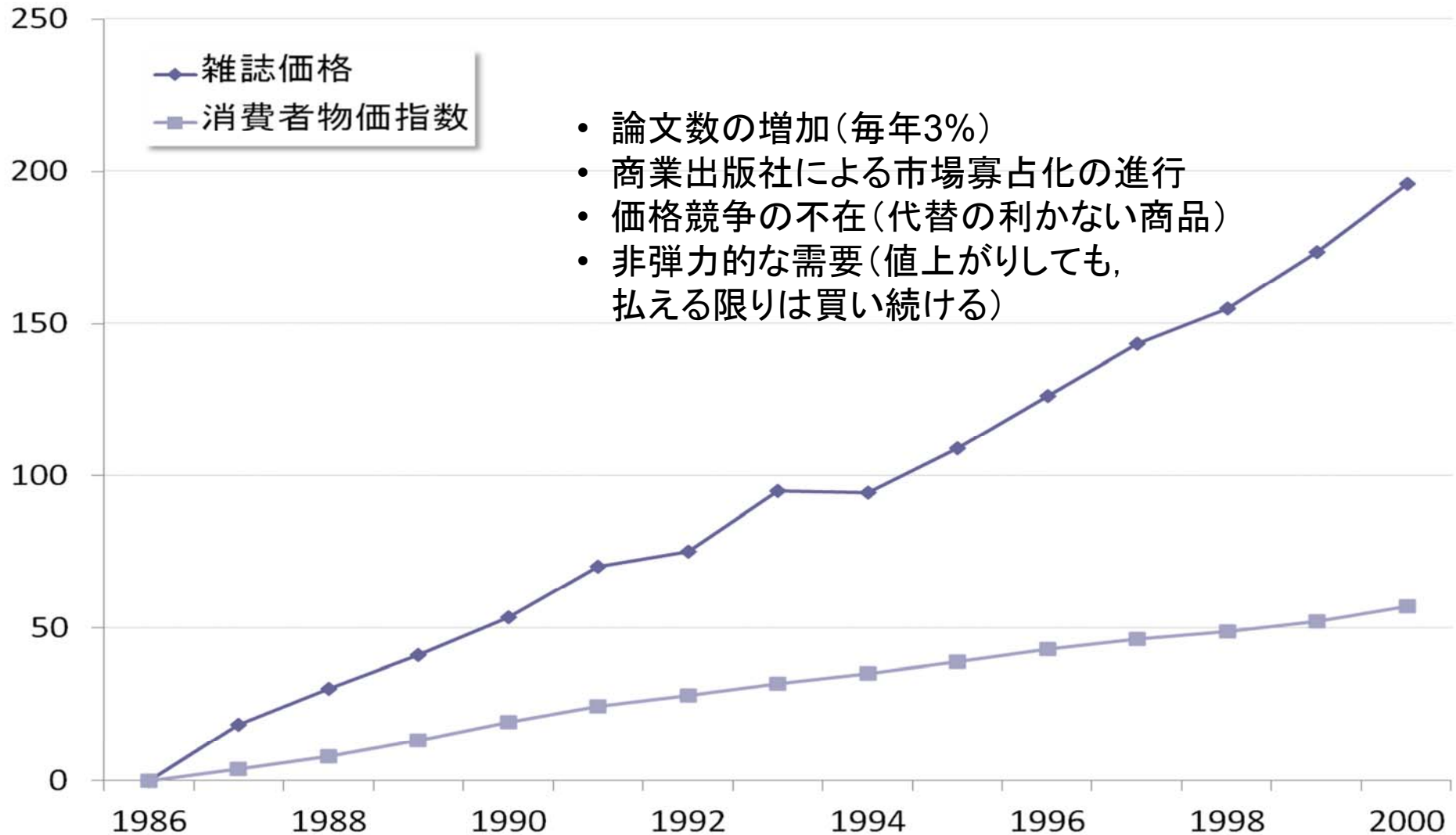
算出方法(2009年のインパクトファクター)

A=2007年、2008年に雑誌Pに掲載された論文が2009年中に引用された回数

B=2007年、2008年に雑誌Pが掲載した論文数

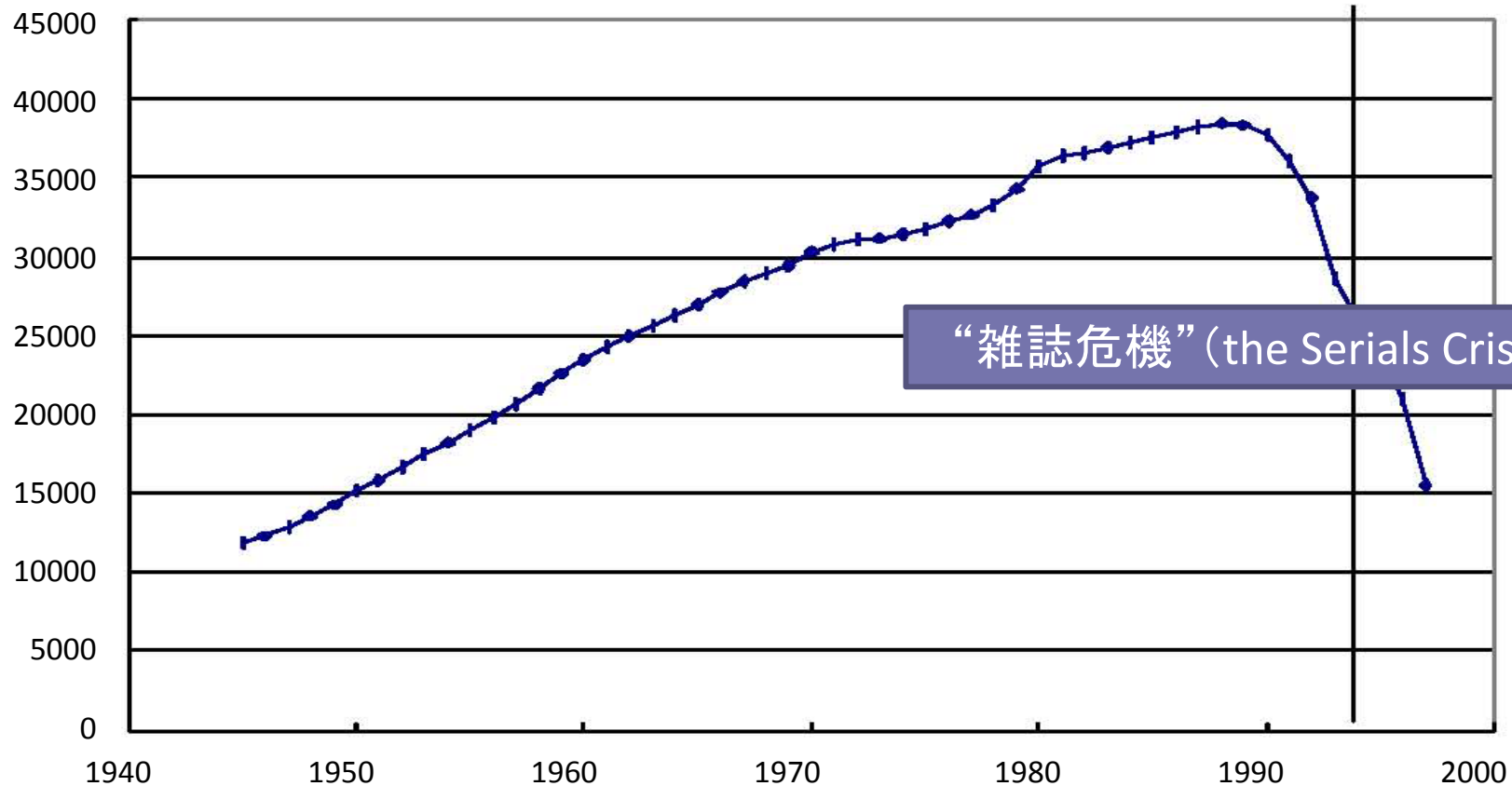
雑誌Pの2009年のインパクトファクター=A/B

学術雑誌価格の上昇



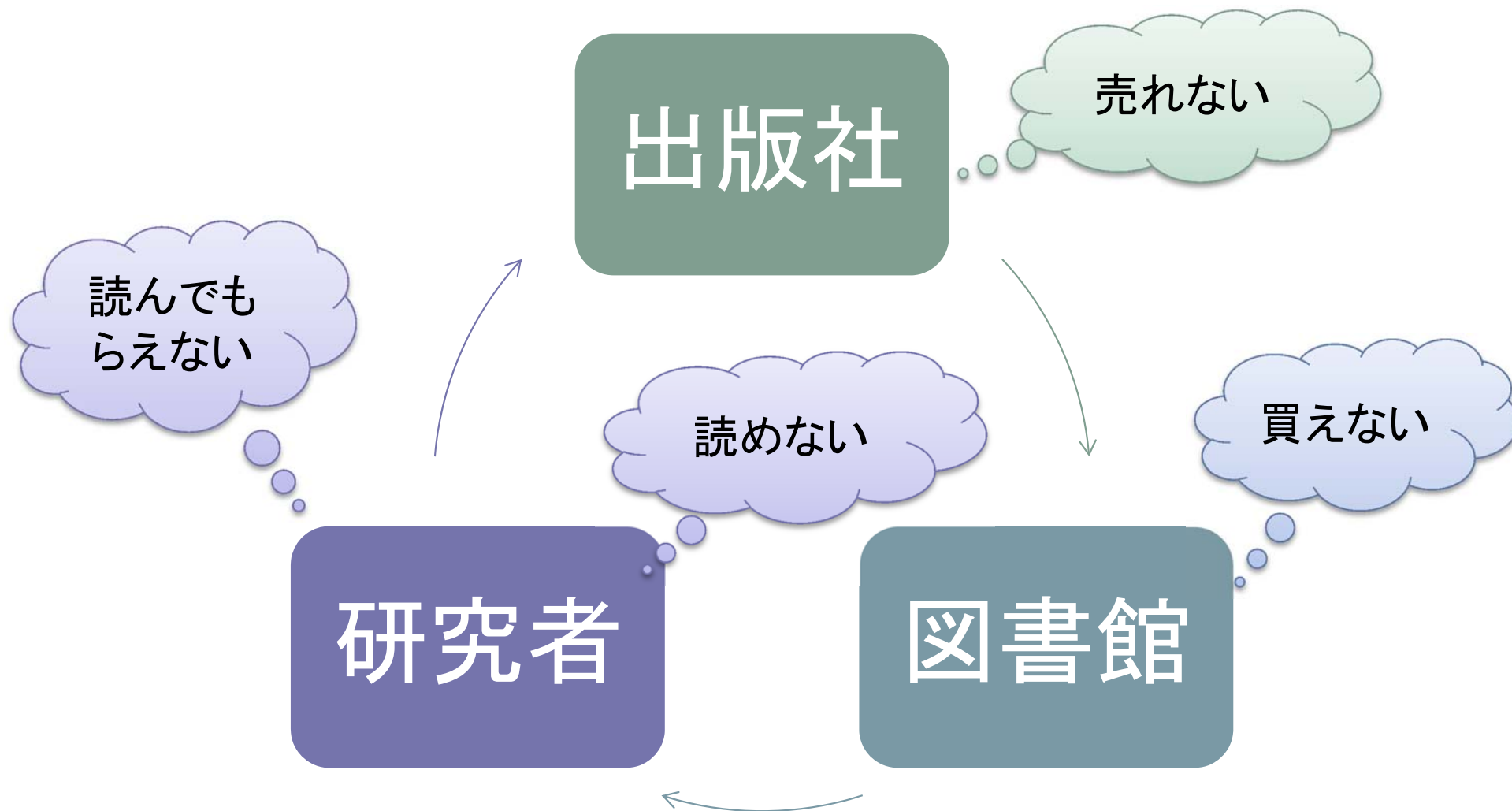
購読中止⇔さらなる価格上昇

タイトル数



学術雑誌総合目録データベースに基づく日本の図書館の外国雑誌受入れタイトル数
「電子的学術定期出版物の収集体制の確立に関する提言」, 日本学術会議, 2000

学術雑誌の流通不全



電子ジャーナルとビッグ・ディール

The screenshot shows the website for Philosophical Transactions of the Royal Society. The main navigation bar includes links for Home, Current issue, Past issues, Submit, Subscribe, and Alerts. A prominent link reads "Link to view Philosophical Transactions of the Royal Society (1665-1887) Archive of All Online Issues". Below this, it indicates "January 1887 - Present" and "The Cover Archive".

The "Current Issue:" section features a cover image with the title "Discussion Meeting Issue 'The spin on electronics' organized and edited by Stuart Parkin, Gabriel Aeppli and Bryan Hickey Vol. 369, Num. 1951".

The "Recent Issues:" section lists several other issues, including "Theo Murphy Meeting Issue 'Metallic metamaterials and plasmonics' organized and edited by William L. Barnes Vol. 369, Num. 1950" and "Theme Issue 'e-Science: novel research, new science and enduring impact' compiled and edited by David W. Walker, Malcolm P. Atkinson, John M. Brooke and Paul Watson Vol. 369, Num. 1949".

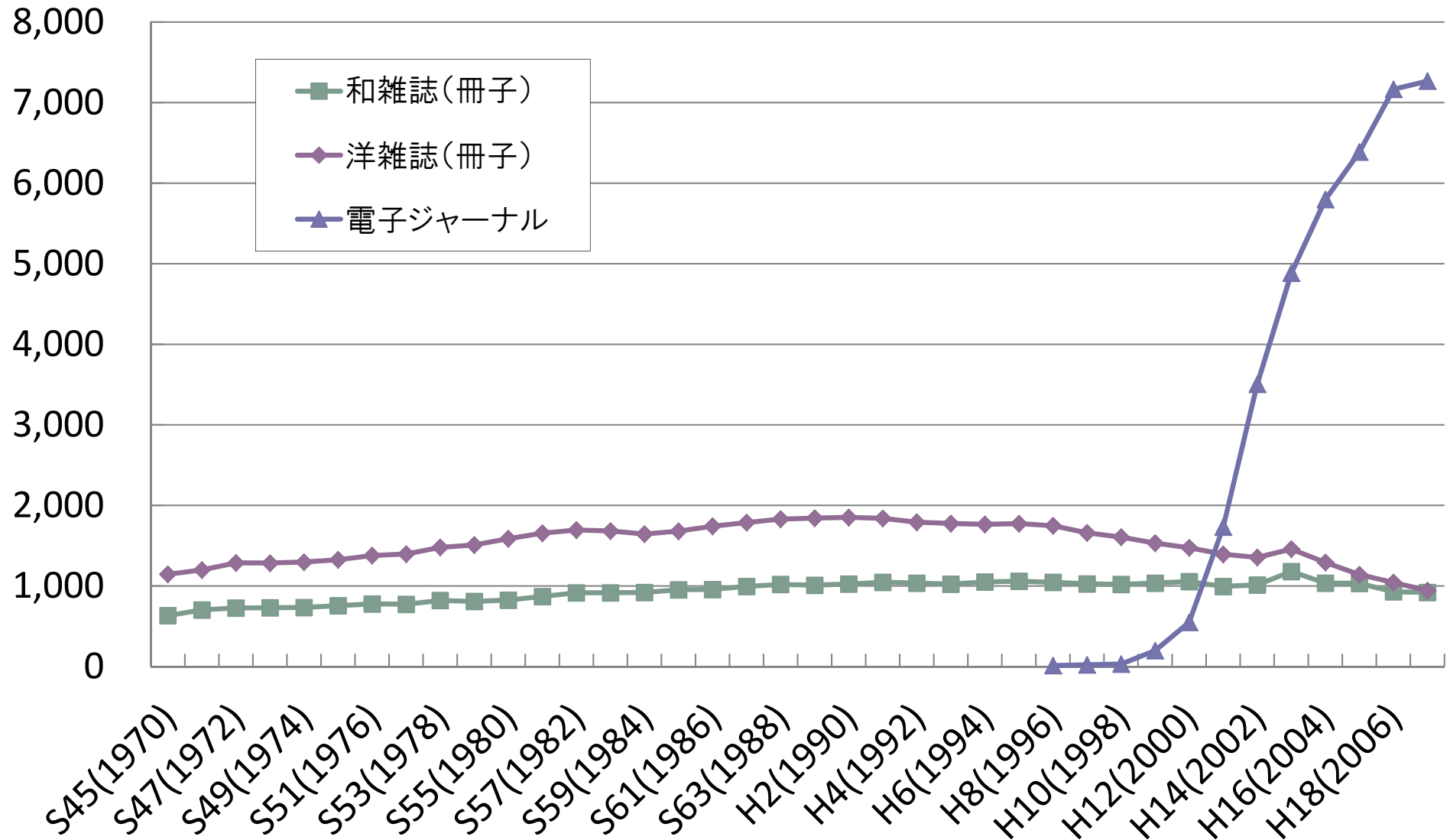
On the right side, a "Table of Contents" for issue 1665: 1 (1-22) is displayed, listing articles such as "Epistle Dedicatory" by Henry Oldenburg, "The Introduction", "An Account of the Improvement of Optick Glasses", "A Spot in One of the Belts of Jupiter", "The Motion of the Late Comet Praedicted", and "An Experimental History of Cold".

At the bottom, a "Full Text and Abstracts" table shows availability for various years from 2010 to 2009.

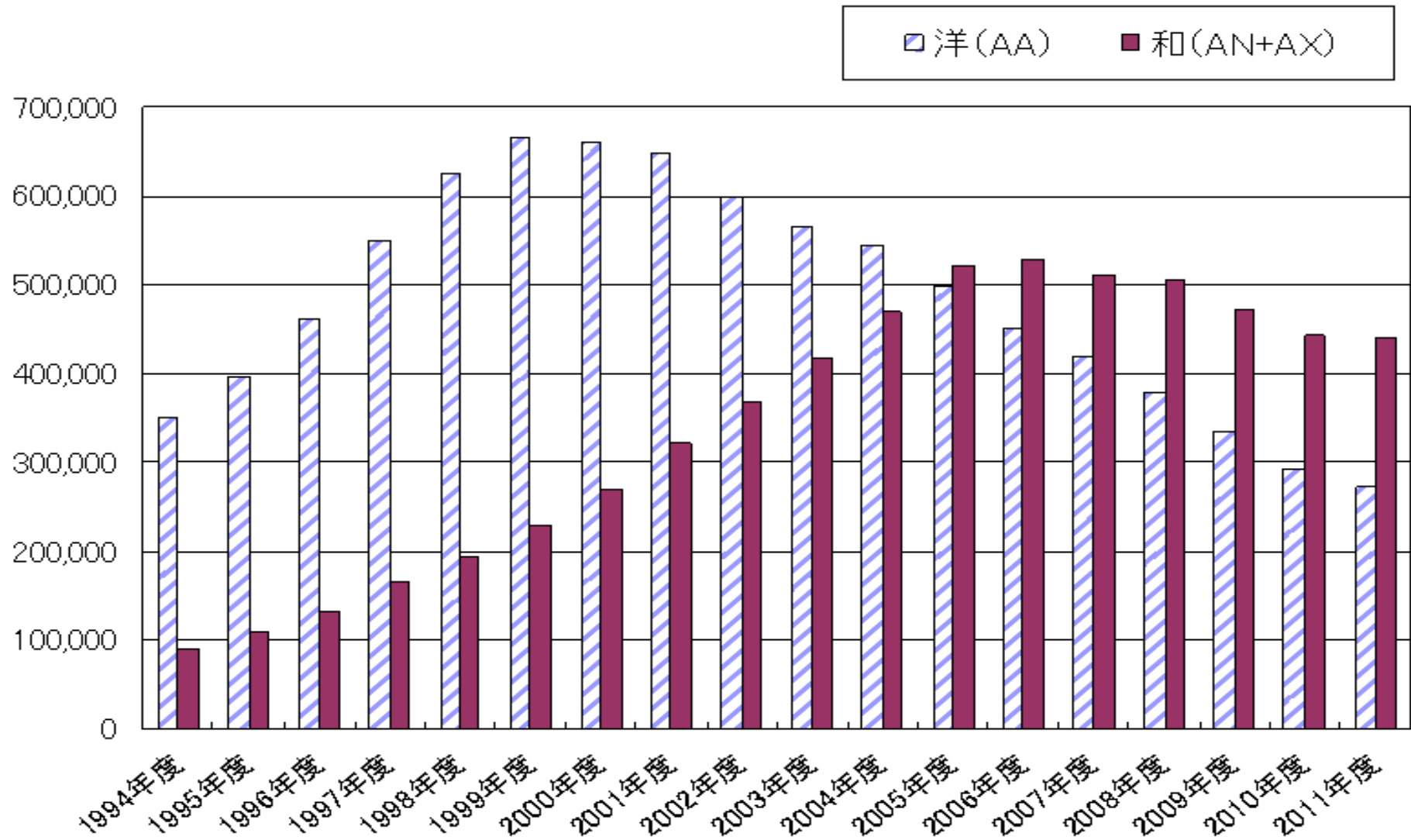
.....そこである計画が浮上してきた。HEFCEが、英国の全ての高等教育機関の研究者にAPのジャーナル200タイトルに無料でアクセスできる権利を提供するための複数ジャーナルの複数年契約に同意した場合、一体何が起こるだろうか.....

ビッグディール: 価格ではなくコストの問題(リチャード・ポインダー著, 尾城孝一訳)
http://www.nii.ac.jp/content/justice/documents/Big-Deal_Japanese.pdf

雑誌平均受入数の推移(国立大学)



ILDDの減少



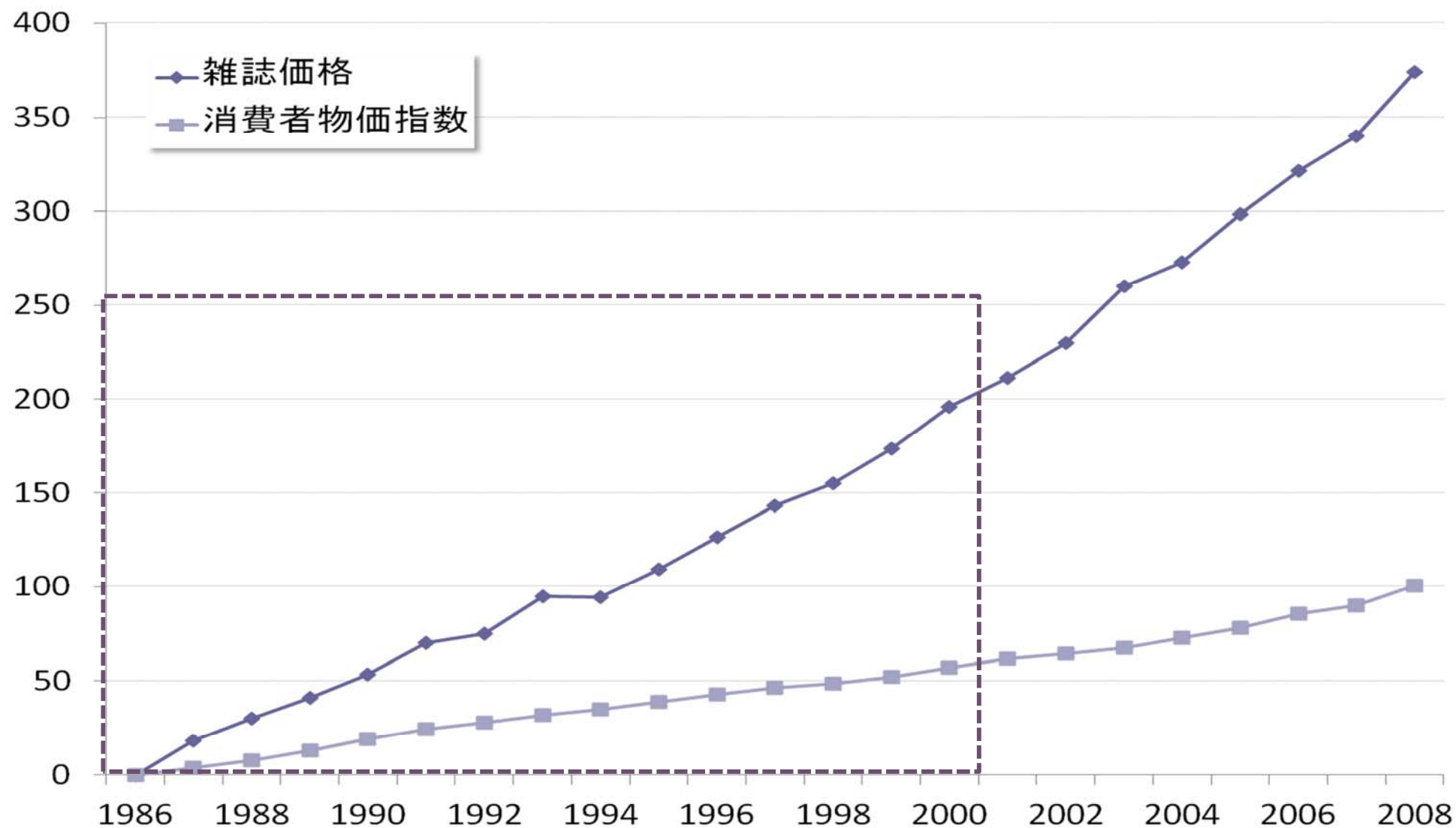
佐藤義則ほか(2012)「NACSIS-ILLログ分析基本集計(1994-2011)」による

学術雑誌の現況

- 学術雑誌：25,000タイトル
- 掲載論文：150万報/年
- 執筆者：100万人
- 読者：1000～1500万人
- 読者の所属機関：10,000機関以上
- ダウンロード：15億回/年

Mabe MA (2009). Scholarly Publishing. *European Review* 17(1): 3-22

学術雑誌価格の上昇



雑誌価格問題への研究者の抵抗

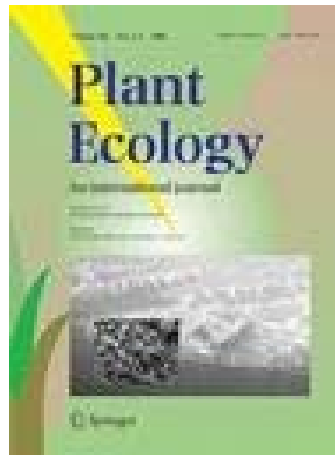
- PLoS Open Letter (2001)
 - 「投稿・編集・査読・購読しない」
 - 180カ国34,000人の署名を集めたものの不発
 - 失望したハロルド・バーマスらが自らPLoS Biology創刊
 - <http://www.plos.org/about/what-is-plos/early-history/>
- The Cost of Knowledge (2011)
 - 英国の数学者ティモシー・ガワーズが主導するエルゼビアボイコット
 - 「高すぎる、パッケージ購読を強要、RWA等OAを妨げるものを支持」
 - 「投稿・編集・査読しない」
 - 世界中から13,837名が署名 (2013.9.9現在)
 - <http://thecostofknowledge.com/>

SPARC

The Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition

- “Returning Science to Scientist”
 - SPARC (1998～) : ARL + 北米等の約200の図書館
 - SPARC Europe (2002～)、SPARC Japan (2003～)
- 初期の活動: 「代替誌戦略」

Plant Ecology
(Springer)

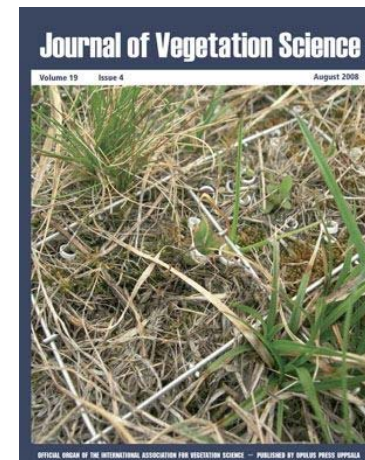


IF2006: 1.383
€3,760

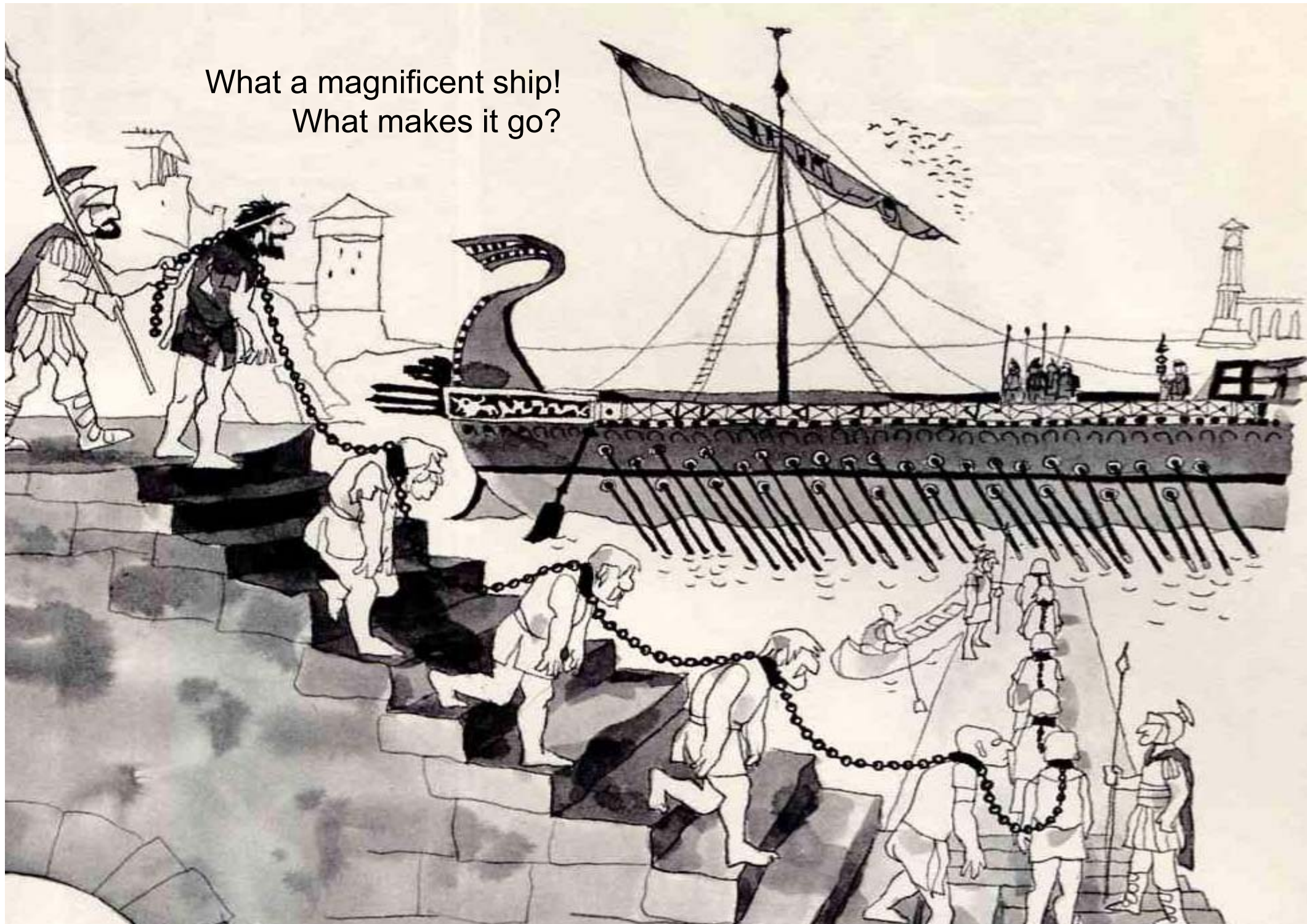
Journal of
Vegetation Science
(Opulus Press)



IF2006: 2.382
€543



What a magnificent ship!
What makes it go?



オープンアクセス

- 学術は人類の共有資産
- 自著論文を万人が読めるようにするために
- Budapest Open Access Initiative (2002)
 - BOAI-1 セルフアーカイビング (Green OA)
 - BOAI-2 オープンアクセスジャーナル (Gold OA)
 - <http://www.soros.org/openaccess/>
- 『自然・人文科学における知識へのオープンアクセスに関するベルリン宣言』(2003)
 - 現在までに389の大学・研究機関が署名
 - <http://oa.mpg.de/berlin-prozess/berliner-erklarung/>

20世紀中葉以降に起きたこと

- 学術情報流通需要の爆発的拡大
- シリアルズクライシス
- EJ化＋ビッグディールによる鮮やかな解決
 - 「読める雑誌の減少」問題は劇的に好転
 - しかし依然としてじりじり上がっていく購読経費
- オープンアクセス思潮の興隆

セルフアーカイビング

- The Subversive Proposal (転覆提案) (スティーブン・ハーナッド, 1994)
 - 月刊DRF20号(2011年9月号)特集記事参照
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?月刊DRF>
- 研究者自ら、執筆した論文をインターネット公開し、無料で利用可能とすること
 - ① [著者のウェブサイト](#)
 - ② [主題特化型リポジトリ](#) (arXiv.orgなど)
 - ③ [機関リポジトリ](#) (小樽商科大学Barrelなど)
 - ④ [研究助成団体のリポジトリ](#) (PMCなど)

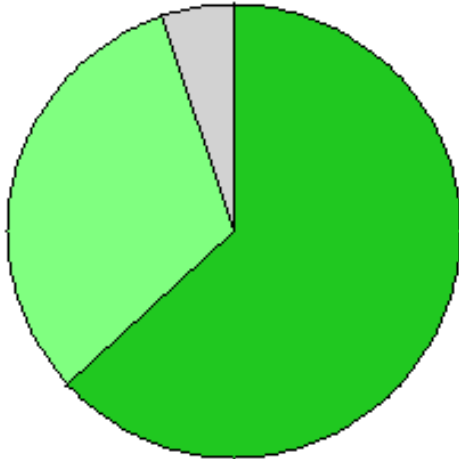
機関リポジトリ

- 大学がその構成員に提供する、大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス(クリフォード・リンチ, 2003)
 - 研究者にとって: 研究成果の可視性向上
 - 大学にとって: 社会貢献
 - 図書館にとって: 研究者との対話、研究生活の理解、生態把握→あらゆる図書館活動にプラスに働く

- いわゆる「電子図書館」(すなわち、90年代に流行した、古写真、貴重書電子化の類)
 - 図書館が公開したいものを、図書館が公開する、読者のためのサービス
- 機関リポジトリ
 - 研究者(大学)が公開したいものを研究者(大学)が公開する。図書館はそのインフラを提供する、著者のためのサービス

著作権は？

- SHERPA/RoMEO (ノッティンガム大学)
 - 1,295の出版者の著作権方針を調査
 - <http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>



例: Authors' Rights (Elsevier)

Q. What rights do I retain as a journal author?

A. the right to **post a revised personal version** of the text of the final journal article (to reflect changes made in the peer review process) **on your personal or institutional website or server** for scholarly purposes, incorporating the complete citation and with a link to the Digital Object Identifier (DOI) of the article.

- SCPJ: 学協会著作権ポリシーデータベース (筑波大学ほか)
 - 国内2,607の学協会の著作権方針を調査
 - <http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>

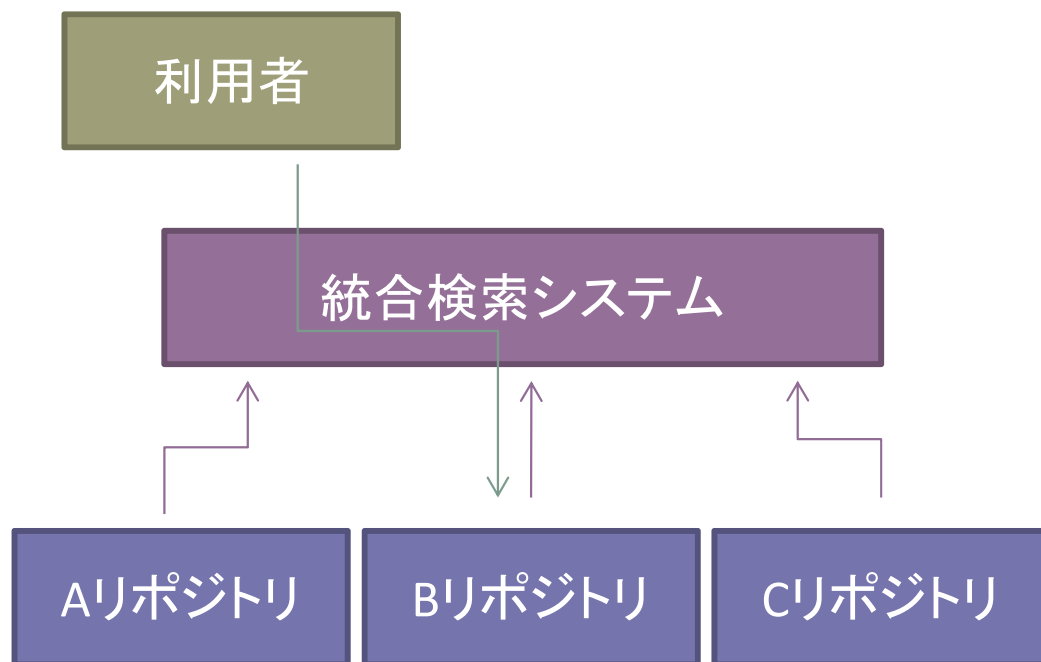
コンテンツ収集

	学術雑誌論文(個別モノ)	学内コンテンツ(一括モノ)
代表的なコンテンツの例	学術雑誌論文、 学会発表資料、...	研究紀要、学位論文、 科研報告書、...
性質	所属研究者の研究成果	機関としての活動成果
出自	外で刊行	大学が刊行
対象物の存在	そもそも把握しづらい	把握しやすい
アタック先	個々の教員	編集委、教授会など
収集範囲	教員の手元にしかない。過去のも のはあまり残っていないので、目標 をカレント分に絞らざるを得ない	初号から最新分まで組織的に。バックナ ンバーは刊行元か、あるいは書庫所蔵 分のスキャンも。あとはアイディア次第
コストと効率	主として人的コスト。 がんばってがんばってがんばって やっと少しずつ集まる	主としてスキャン経費。 電子化の主体的意志をうまく喚起してIR 事業と接続し、作業ベースに落とす
IRの持続性への意義	教員ひとりひとりのIRへの理解と支 持は事業継続の土台	いったん開拓できれば安定的なコンテン ツ流入ルートに
いずれも	コンテンツの持ち主との対話がもっとも重要	

分散アーカイブの統合利用

- OAI-PMH (メタデータ収集のための標準規約) による統合データベースの構築

例: JAIRO



The screenshot shows the JAIRO (Japanese Institutional Repositories Online) website. The header includes the JAIRO logo and the text 'Japanese Institutional Repositories Online'. Below the header, there is a news section with several items. The main content area features a search bar with a 'Search' button, a 'Results per page: 10' dropdown, and a 'Sort by: Year (Descending)' dropdown. A 'Content types' section is visible, listing various document types with their counts and checkboxes for selection. The 'Organizations' section is also present at the bottom.

Content type	Count
Journal Article	225,808
Departmental Bulletin Paper	419,070
Presentation	8,413
Technical Report	5,839
Article	37,390
Learning Material	5,145
Software	8
Thesis or Dissertation	46,664
Conference Paper	56,355
Book	18,094
Research Paper	16,481
Preprint	327
Data or Dataset	11,261
Others	112,798

機関オープンアクセス方針

- ハーバード大学の例
 - 「学術研究の成果をできる限り広く行き渡らせることは我々の本質的責務」(スティーブン・E・ハイマン研究担当副学長)
 - 文理学部教授会、全会一致で採択(2008)
 - 「文理学部教員の学術論文について著作権を行使する権限(=機関リポジリでの公開)を大学に与える」
 - 次いで法学部、政治学部、教育学部等でも同一方針採択
- 世界で178の大学等が同様の方針を採択
 - ほか学部等单位40機関
 - ROARMAP <http://roarmap.eprints.org/>

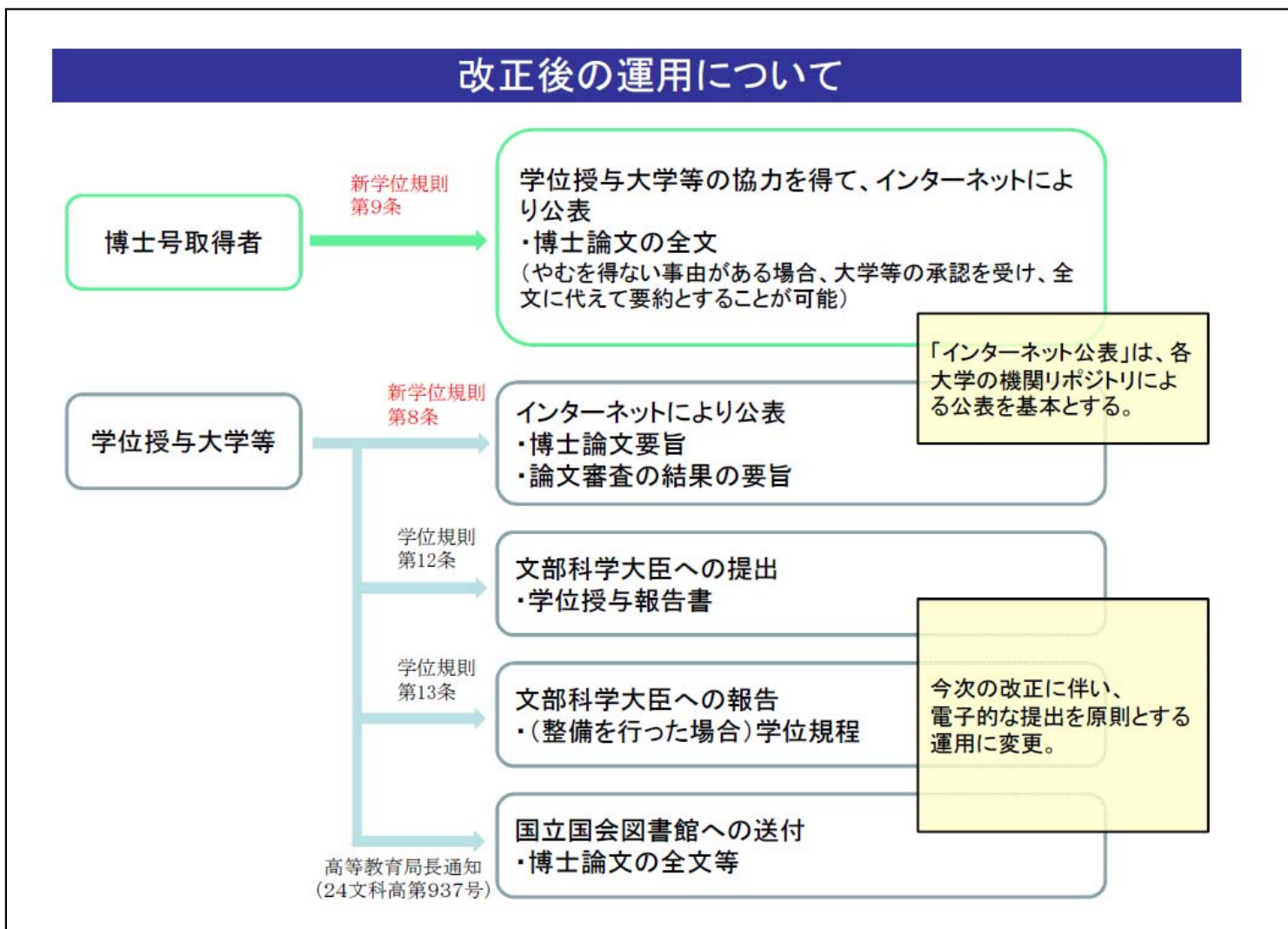
研究助成機関によるOA義務化

- 公的資金に基づく研究成果の納税者への還元
- 米国国立衛生研究所(NIH)の例
 - **パブリックアクセス方針**の法制化(2007.12)
 - NIHから研究助成を受けた研究者は、論文刊行後12か月以内に国立医学図書館(NLM)が運営するPMCIに提出し、無料で公開
- 他に、UK、EU、カナダ、スペイン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、フランス、ハンガリー、アイルランド、ノルウェイ、スウェーデン、スイスなど、世界で81の研究助成機関
- 「JSTが進める具体的なオープンアクセス化は、国の施策として進められている機関リポジトリを基盤として活用し、研究者が発表したジャーナルの許諾を得たうえで機関リポジトリ上での『一定の期間』内の公開を推奨する旨、公募要領などに明記し推進することとする。」
 - オープンアクセスに関するJSTの方針(科学技術振興機構 2013.4)

学位規則の一部を改正する省令

学位規則の一部を改正する省令

学位規則（昭和二十八年文部省令第九号）の一部を次のように
第八条中「公表」を「インターネットの利用により公表」に改



Research Works Act法案(2011.12)

- 政策的オープンアクセス擁護への反動
- 「公的資金助成に基づく論文のインターネット無料公開を促す政策を禁止せよ」
- 米国出版会(AAP)が賛同→しかし造反組続出
 - BioMedCentral、Nature Publishing、AAAS(サイエンス)、Springer、MIT Pressほか多数
- 対立法案「FRPAA2012」提出
 - 研究助成を行う連邦政府機関にOAを要求
- トマス・クリッチェル(RePEc創始者)コメント
 - 「図書館は雑誌購読をキャンセルして出版社への資金供給を断て。オープンアクセスを遅らせているのは図書館だ」

Green OA振興

- 国立情報学研究所学術機関リポジトリ構築連携支援事業(2005-2012)
 - 委託事業として、国内大学等の機関リポジトリ構築、インフラ整備を支援
 - <http://www.nii.ac.jp/irp/>
- 機関リポジトリ推進委員会
 - 「(2)機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築」(NII-国公立大学図書館協力委『連携・協力の推進に関する協定書』(2010.10))
- DRF: デジタルリポジトリ連合(2006-)
 - 国内の大学、研究機関 153機関
 - 「機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト」、研修開催、ワークショップ開催等
 - <http://drf.lib.hokudai.ac.jp>
- COAR: 国際オープンアクセスリポジトリ連合(2009-)
 - 世界の大学、関連団体(DRF、NIIを含む)により設立
 - 日本の大学図書館職員も活動参画(執行部、WG等)
 - <http://www.coar-repositories.org>



オープンアクセスジャーナル

- 9,904種 (2013.9.9現在)

- <http://www.doaj.org/>

- 諸類型

- 完全無料型

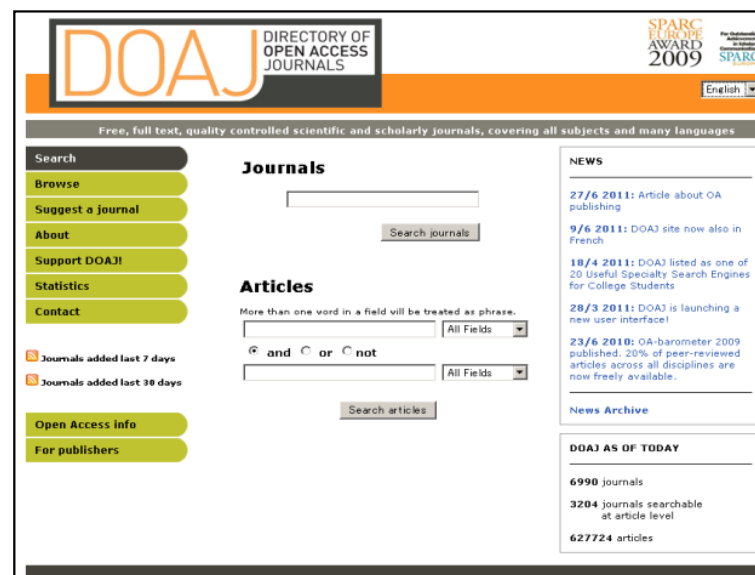
- 著者支払い・読者無料型

- ハイブリッド型

- 一定期間後無料公開型 (HighWireなど)

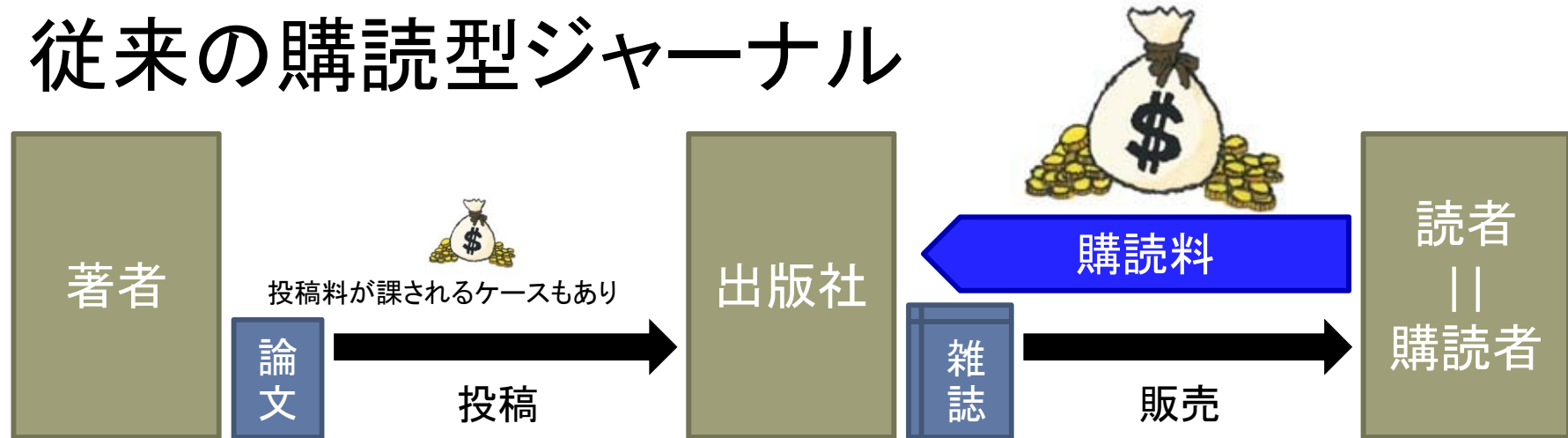
- 電子版のみ無料公開型 (Hindawiなど)

- 三根慎二 (2007). オープンアクセスジャーナルの現状. 大学図書館研究, 80 <http://hdl.handle.net/2237/10118>

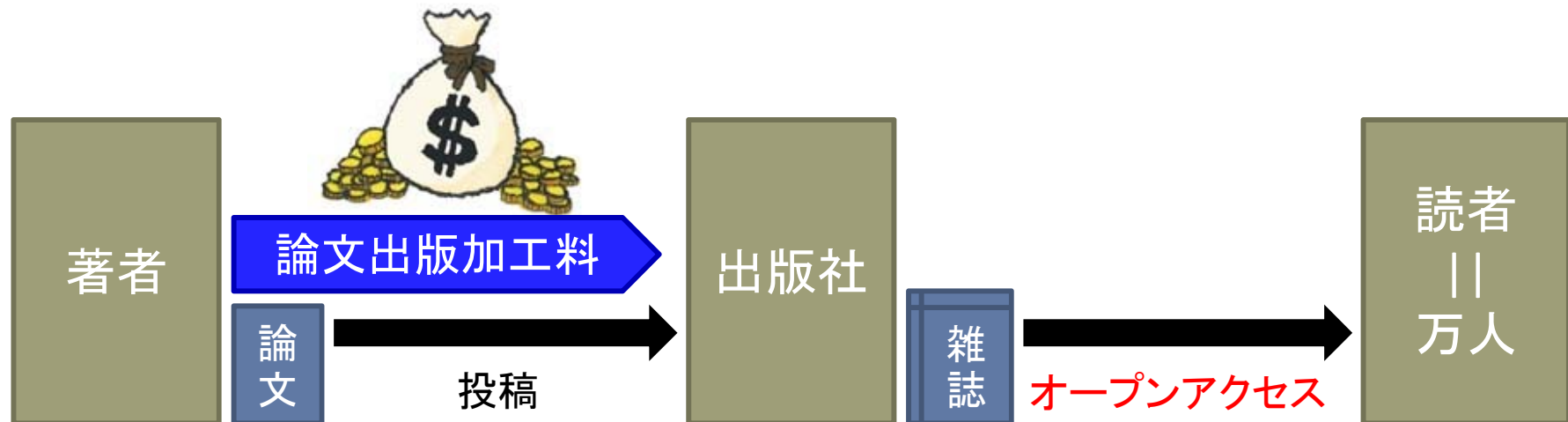


Article Processing Charge (APC) (論文出版加工料)

- 従来^レの購読型ジャーナル

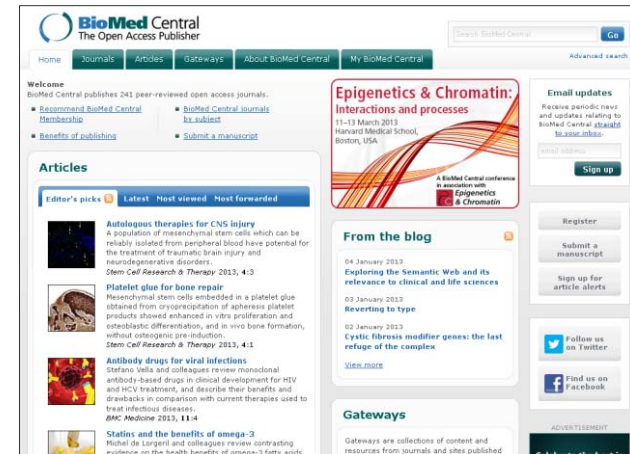


- 著者支払い・読者無料型OAジャーナル



代表的なオープンアクセス出版団体

- BioMed Central
 - 自然科学系257誌を電子出版
 - 1999年構想発表、2002年APC徴収開始
 - 2008年、Springerが買収
- PUBLIC LIBRARY of SCIENCE (PLOS)
 - 2001年設立
 - 自然科学系7誌を電子出版
 - APC: 1,350~2,900ドル
 - 他社優良誌にひけをとらない品質
 - PLoS Biology (2003-) : IF(2009)=12.916

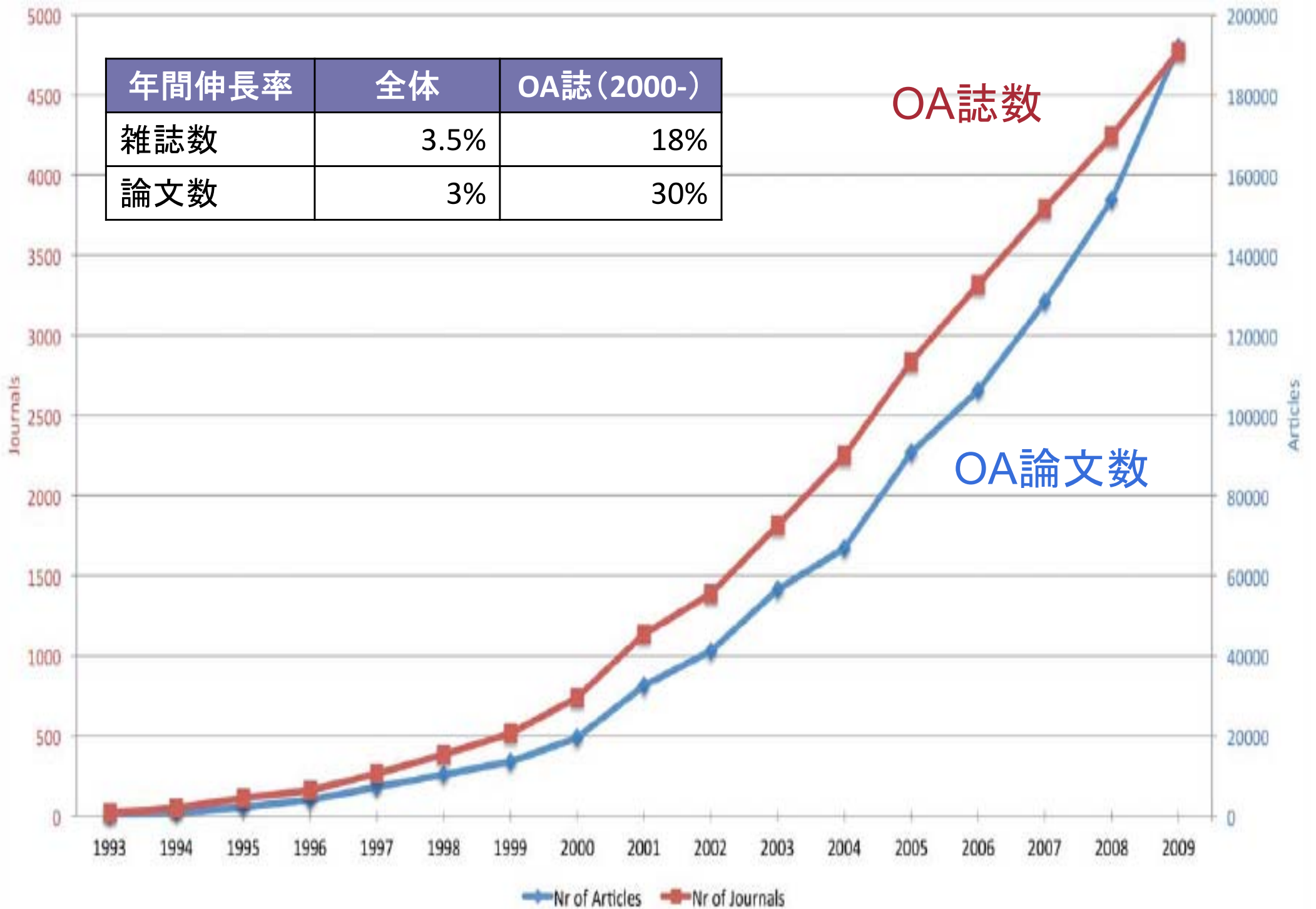


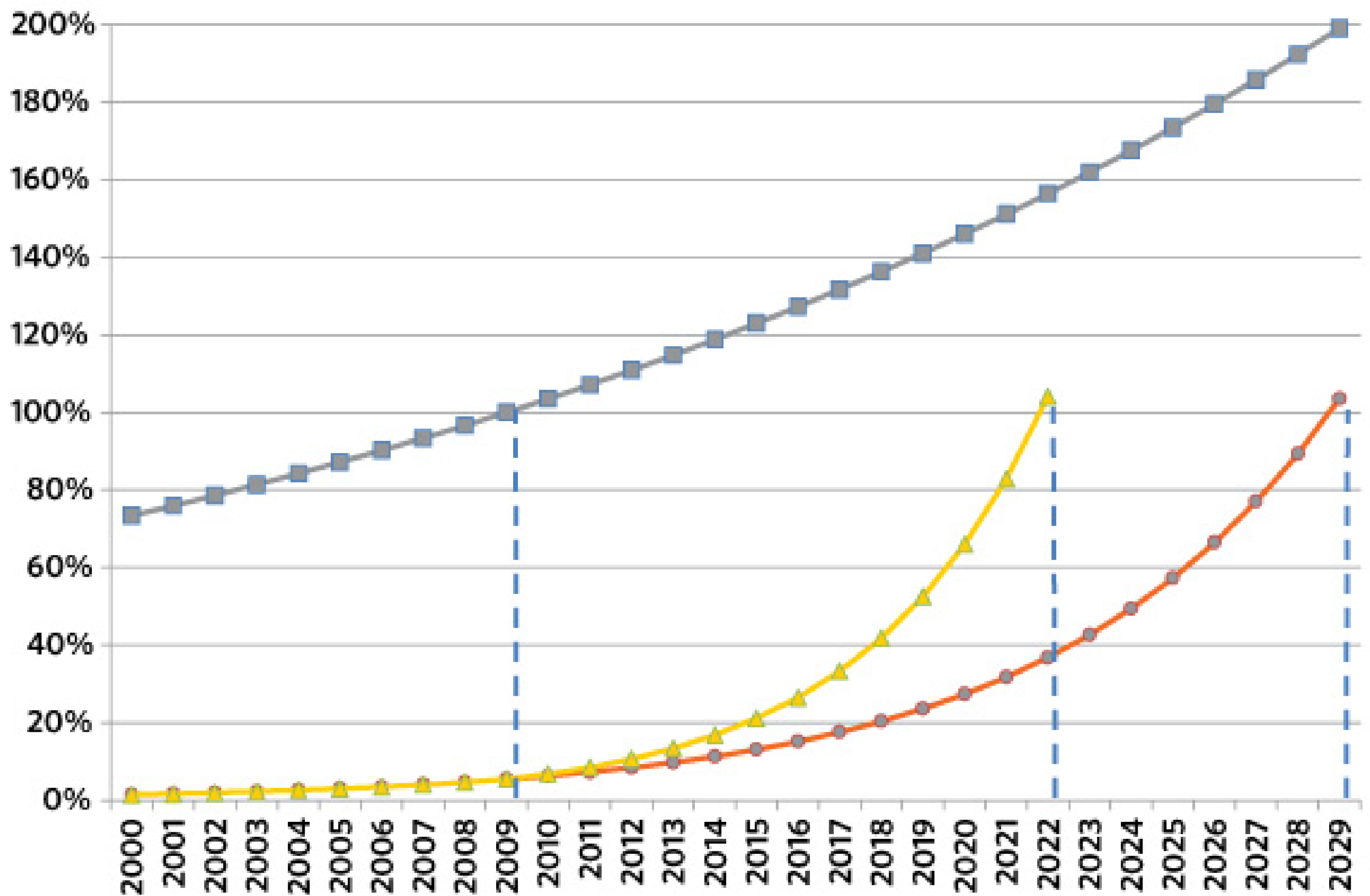
主要出版者のAPC一覧

Publisher	APC	Publisher	APC
BMC	\$1665-\$1905	Selected Nature Journals	\$3000-\$3900
American Chemical Society	\$3000	Nature Communications	\$5000
BMJ	\$3930	PLoS	\$1350-\$2900
BMJ Open	\$1885	Springer OpenChoice	\$3000
Elsevier	\$3000-\$5000	SpringerPlus	\$1085
Hindawi	\$300-\$1500	Wiley-Blackwell Online Open	\$3000

BioMedCentral調べ (<http://www.biomedcentral.com/about/apccomparison/>)

年間伸長率	全体	OA誌(2000-)
雑誌数	3.5%	18%
論文数	3%	30%





■ Overall article growth (3.5% per year, 2009 = 100%)

▲ Gold OA rate B (30% per year, Björk simulation)

● Gold OA rate S (20% per year, Springer)



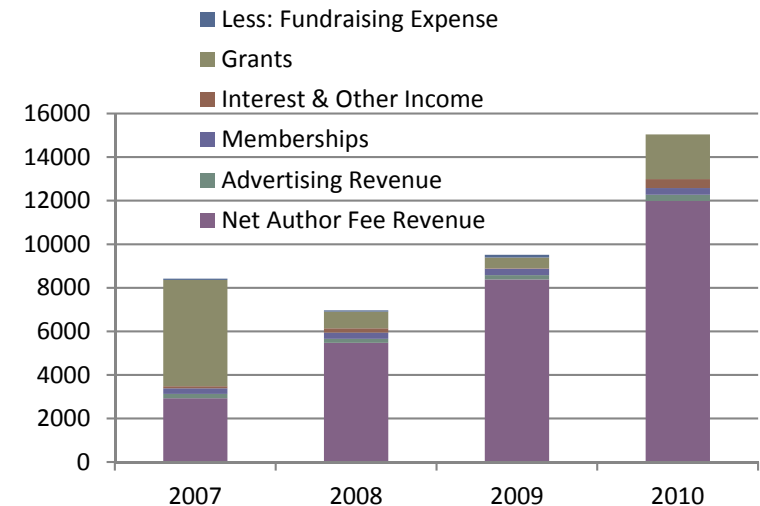
オープンアクセス学術出版協会

- Open Access Scholarly Publishers Association
- 2008年10月設立、80の出版団体等が加盟
 - OA Professional Publishing Organizations: 29
 - PLoS, Biomed Central, Wiley, Springer, AIP, APSなど
 - OA Scientist/Scholar Publishers: 12
 - Other Organizations with Voting Privileges: 9
 - SPARC Europe, California Digital Libraryなど
 - Associate Members: 30
- 世界中のOA出版団体の意志を代表する
 - 情報共有、標準技術の確立、先進的モデル形成、アドヴ
オカシー、教育、イノベーション促進

新たなコンセプトのオープンアクセス出版①

PLoS ONE (2006-)

- “オープンアクセスメガジャーナル”
 - 14,000報/年(2011)、23,468報/年(2012)
 - APC:1350ドル
 - PLoSの財政向上の原動力
 - 査読では科学的正当性のみを審査(質は保証するが価値は保証しない)
 - 「評価は出版後にされるべき」
→論文単位統計(Article Level Metrics)
- クローン誌、亜種続々
 - Scientific Reports (NPGが出版)
 - SpringerPlus (APC \$1,135)
 - The Scientific World Journal (購読モデル→Hindawiが買収、OA化。IFあり)
 - SAGE Open (社会科学分野。APC \$695)
- 「数年のうちに、数々のメガジャーナルがPLoS ONEのような成功を遂げる。そして、世界中の研究論文が、相当の割合でそこに集中する。うまくいけば、メガジャーナルは、学術雑誌オープンアクセス化の最強最速のモデルとなるのではないだろうか」(Peter Binfield出版代表(当時)から『月刊DRF』読者へのメッセージ)



新たなコンセプトのオープンアクセス出版②

eLife (2012-)

- 研究助成団体等が出版を助成(英Wellcome/米HHMI/独MP)
- “OA journal for **the very best** in life science and biomedical”
- 当面APCなし→大学の研究機能の喪失？
 - 研究者は研究助成団体によって評価＋資金助成される
 - 研究成果の流通は当面無料(購読料も投稿料も要さない)
 - 「つまり、給料は大学からでている。大学は教員に教育を要求している。『研究したいなら外部資金でやりなさい。ただし、研究は給料で買っている時間の一部を使っていいです』ということになります」(土屋先生談)
- 「Journal of Our Grantees」との揶揄あり
→It kills the Journal. (Mark Patterson)
- 当初は出版プラットフォームとしてHighWireを想定→PMCでの出版に変更

新たなコンセプトのオープンアクセス出版③

PeerJ (2012-)

- 会員制「生涯99ドル」
 - すべての共著者が会員である必要あり(ただし12名まで)
 - 「入会金だけとって全リジェクトの恐れは？」→アカデミックエディタは独立
 - 最低年1回の査読要請(拒否すると会員権停止(\$99で再開))
 - Institutional discountあり
- Peter Binfield (PLoS ONE) + Jason Hoyt (Mendeley)
- 査読論文の公表 (PeerJ) とプレプリント共有 (PeerJ PrePrints) の場
- 査読方針: PLoS ONEと同様の軽量査読

	Basic Plan	Enhanced Plan ("most popular")	Investigator Plan
事前入会	\$99	\$199	\$299
(査読通過後入会)	\$129	\$239	\$349
PeerJ	1	2	無制限
PeerJ PrePrints (Public)	無制限	無制限	無制限
PeerJ PrePrints (Private)	1	無制限	無制限
主ターゲット	大学院生	ポスドク	ラボ長や多作家

Remember that a society would publish a journal with articles from its members; members that paid a membership to support the society and its journal? So deep in its core, does it mean that PeerJ is simply a scientific society, charging its members for the service of publishing? I think it is. And I think it is a great idea.

- Eduardo Santos "PeerJ: are we reinventing the wheel?" (Monday, 16 July 2012)
<http://sparrow.otago.ac.nz/index.php/blog/34-general/141-peerj-are-we-reinventing-the-wheel>

新たなコンセプトのオープンアクセス出版④

Social Sciences Directory (2012-)

- 社会科学系、PLoS ONEと同様の軽量査読
- 破格のAPC(100ポンド)
- 機関メンバーシップ制度(2,000ポンド)
 - 所属教員は1年間投稿し放題
 - 理系の普通のAPCモデル出版であれば1編の価格相当
 - ノッティンガム大学が世界初の機関会員契約
 - 「ノッティンガム大学は雑誌の品質でなく雑誌のビジネスモデルによって論文投稿先を選択するのか」との批判あり
- サブミッション時にAPC課金
- 姉妹誌 Humanities Directory

Scholarly Open Access

Critical analysis of scholarly open-access publishing

[Home](#)

[About the Author](#)

[Disclaimer](#)

[Individual Journals](#)

[List of Publishers](#)

[Research](#)

List of Publishers

Beall's List:

Potential, possible, or probable **predatory** scholarly open-access publishers

This is a list of questionable, scholarly open-access publishers. We recommend that scholars read the available reviews, assessments and descriptions provided here, and then decide for themselves whether they want to submit articles, serve as editors or on editorial boards. The criteria for determining predatory publishers are [here](#).

We hope that tenure and promotion committees can also decide for themselves how importantly or not to rate articles published in these journals in the context of their own institutional standards and/or geocultural locus. We emphasize that journal publishers and journals change in their business and editorial practices over time. This list is kept up-to-date to the best extent possible. Sudden, unreported, or unknown enhancements are noted.

- o [Abhinav](#)
- o [A M Publishers](#)
- o [Academe Research Journals](#)
- o [Academia Publishing](#)
- o [Academic and Business Research Institute](#)

RECENT POSTS

- o [Two Predatory Bloopers](#)
- o [OA Journal Pays Authors for Their Work — \\$2,500](#)
- o [Publisher Charges Authors for Retractions](#)
- o [Publishing Pseudo-Science](#)
- o [Respected Swiss Journal Hijacked by Unknown Criminals](#)

ARCHIVES

- o [January 2013](#)
- o [December 2012](#)
- o [November 2012](#)
- o [October 2012](#)

Adjective

predatory (*comparative* more predatory, *superlative* most predatory)

1. Of, or relating to a predator.
2. Living by [preying](#) on other [living animals](#).
3. (*figuratively*) Exploiting or victimizing others for personal gain.

- o [January 2012](#)

カスケード査読

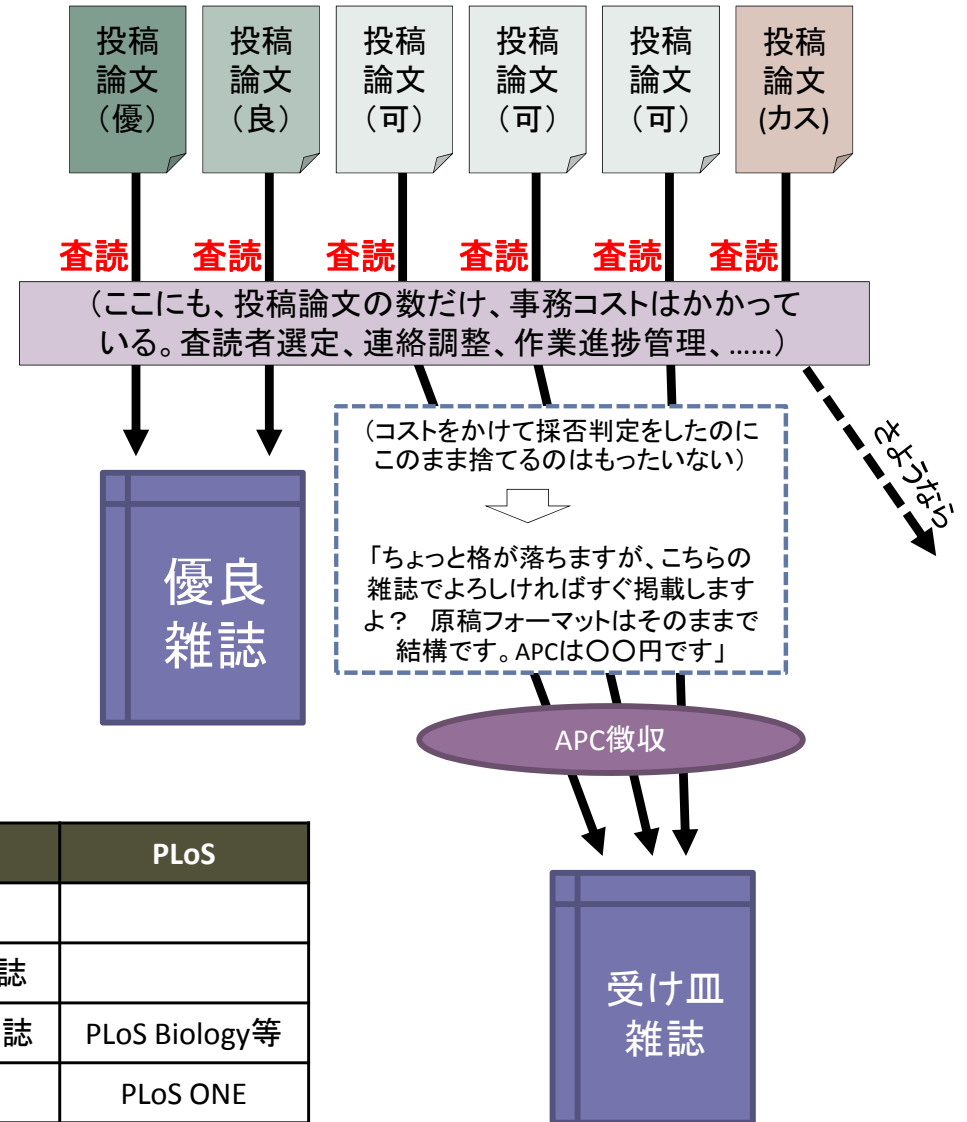
「他の Nature、Nature 姉妹誌で論文原稿が不受理となった場合、著者は、論文原稿の自動転送サービスを利用して、原稿をNature Communications に投稿することができます。(中略)Nature Communications のエディターは、編集上の決定を行う際に、以前の査読結果を考慮に入れますが、さらに別の査読者から助言を受ける場合もあります。なお、著者は、新たな査読を要求することもできます」

-Nature Communications (NPG)

※さらには、出版者を越えたカスケード査読も。



(神経科学分野40誌による「神経科学ピアレビューコンソーシアム」)



	NPG	Springer	PLoS
購読モデル誌	Nature本誌等		
購読モデル誌(ハイブリッド)	Nature Comm.等	SpringerLINK各誌	
オープンアクセス誌	Mol. System Biol.等	SpringerOpen各誌	PLoS Biology等
メガジャーナル等	Scientific Reports	SpringerPlus	PLoS ONE

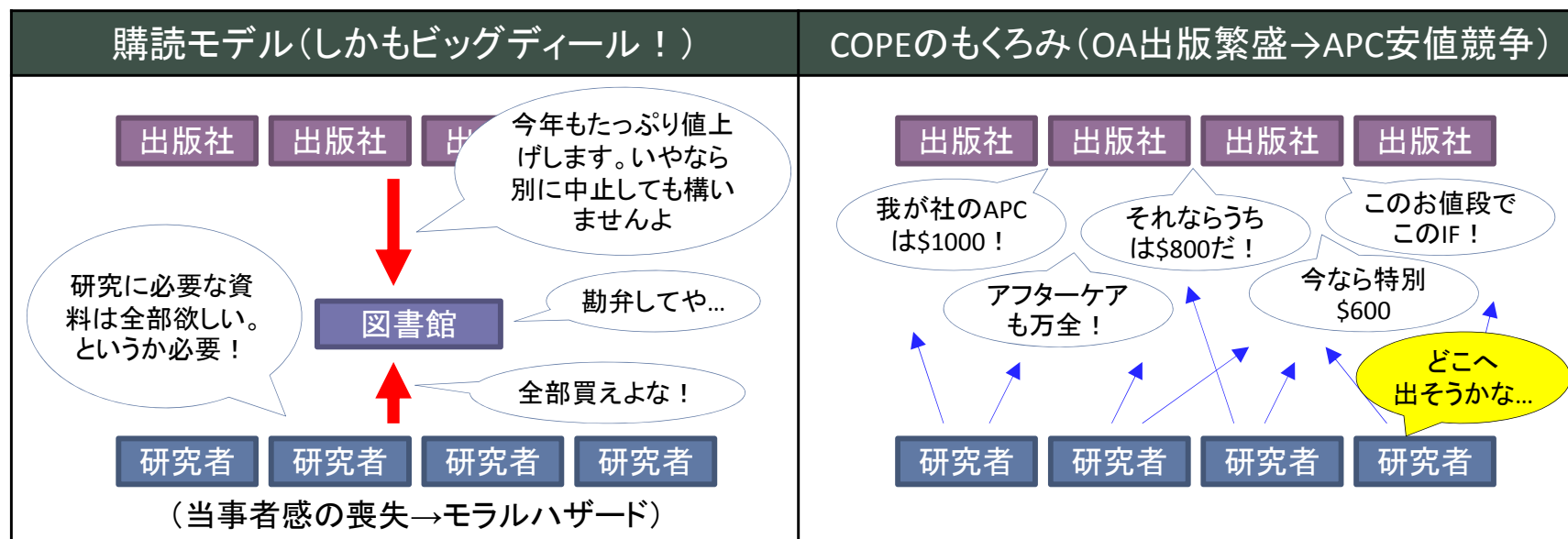
商業出版社の戦略転換

(シュプリンガーの例)

- 既成誌のハイブリッドジャーナル化 (Open Choice)
- 「SpringerLINK購読＋全Open Choice」の包括契約
 - 所属研究者のAPCを大学・研究機関が一括負担 (MPG、UC、ゲッチンゲン大学、中国科学院など)
- BioMedCentral買収 (2008)
- SpringerOpen (2011-) 48誌を創刊
 - 従来型有料パッケージ (SpringerLINK) は温存
- SpringerPlus (2012-)

「オープンアクセス出版支援協定」

- Compact for Open-Access Publishing Equity
 - 北米を中心とした17の大学・研究機関(2009-)
 - APC費用の支援などにより、OA誌への投稿を促進
 - (将来的に)APC設定等における**市場原理の作動**を期待





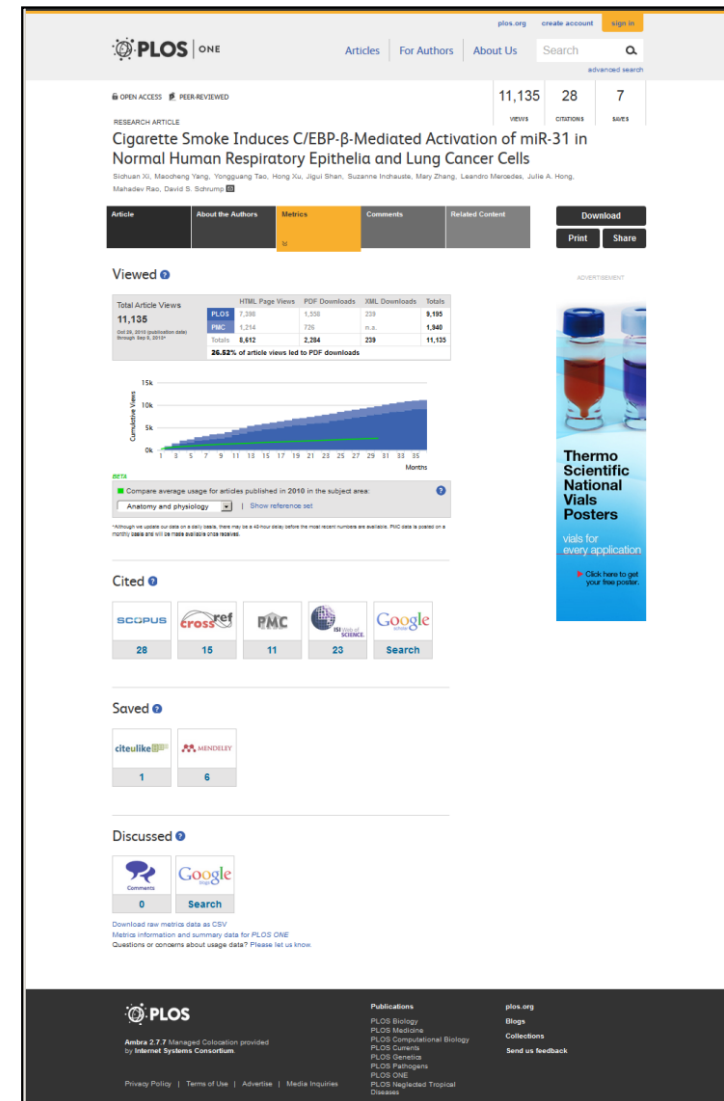
Finchレポートを巡る攻防



- 英国政府への審議会答申「Finchレポート」(2012)
 - オープンアクセスへの移行に向けての10項目の提言
 - OA誌ないしハイブリッド誌、APC支援、再利用、購読アクセス普遍化、公立図書館、地方自治体、ポストビッグディール、モノグラフ、大学/助成機関/出版社/学会の協働、IR/SRは研究データと灰色文献のOAと保存、購読型ジャーナル保護
- RCUK(英国研究会議(研究助成団体))の新方針
 - 助成研究の成果論文は次のような雑誌に投稿せよ
 1. OA誌またはOAオプションのある有料誌
 2. もしくは、6~12カ月以内に、著者稿のリポジトリ公開を認める雑誌
- embargoの長期化とハイブリッド誌化の温床
 - “Good business. Thanks to Finch and RCUK.” (Stevan Harnad)
- 英国政府、1,700万ポンド(2013)の資金投下を決定

価値評価の多様化

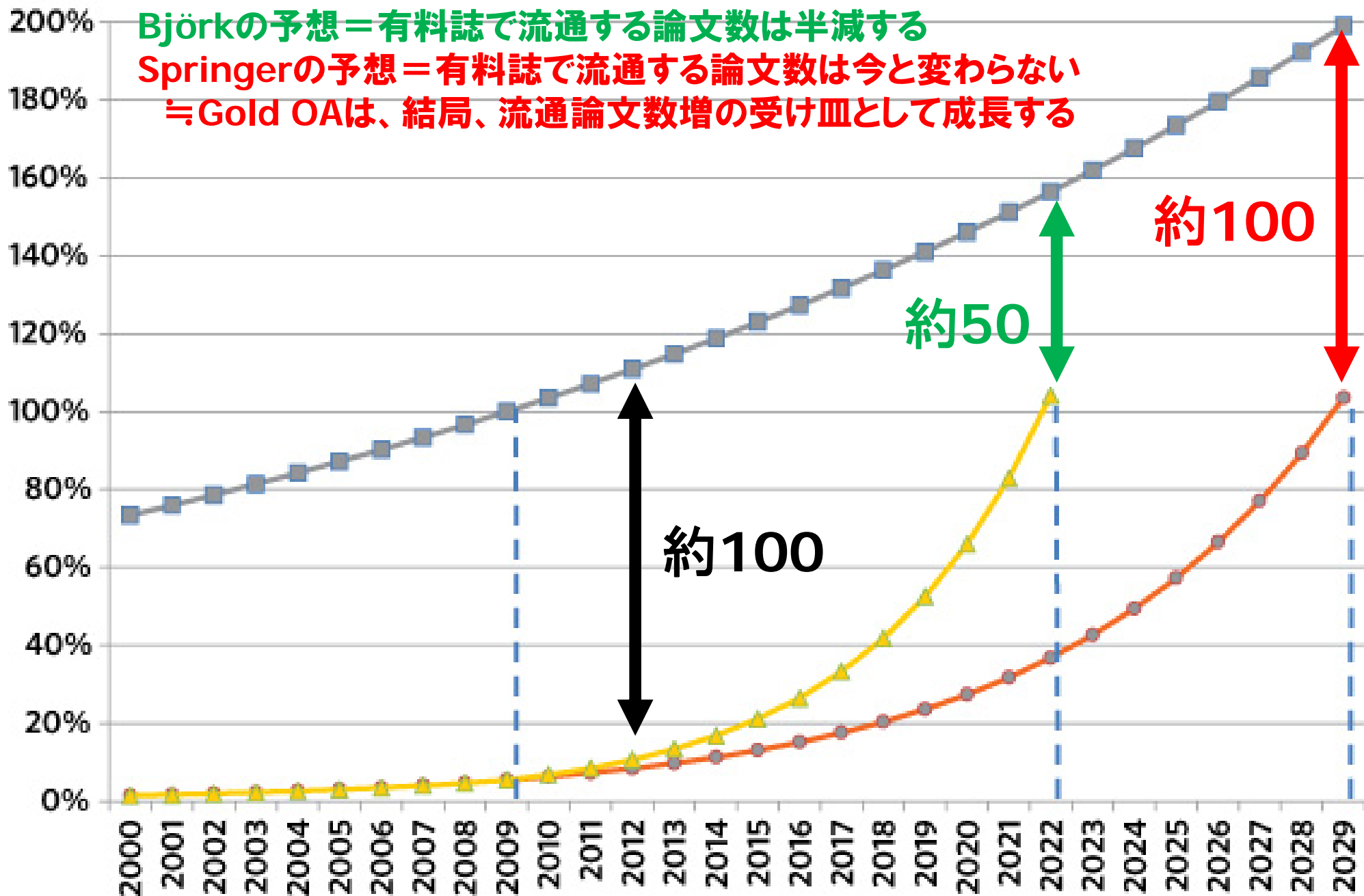
- 論文単位統計 (Article-level Metrics)、"AltMetrics"
- DORA: The San Francisco Declaration on Research Assessment (2012.12)
 - 雑誌ベースでなく、研究自体に即した研究評価の導入を提言
 - 助成機関、学術機関、学術雑誌、数量的指標を提供する機関、個々の研究者
 - 372の出版社等、9,108の個人が賛同署名



Björkの予想 = 有料誌で流通する論文数は半減する

Springerの予想 = 有料誌で流通する論文数は今と変わらない

≒ Gold OAは、結局、流通論文数増の受け皿として成長する

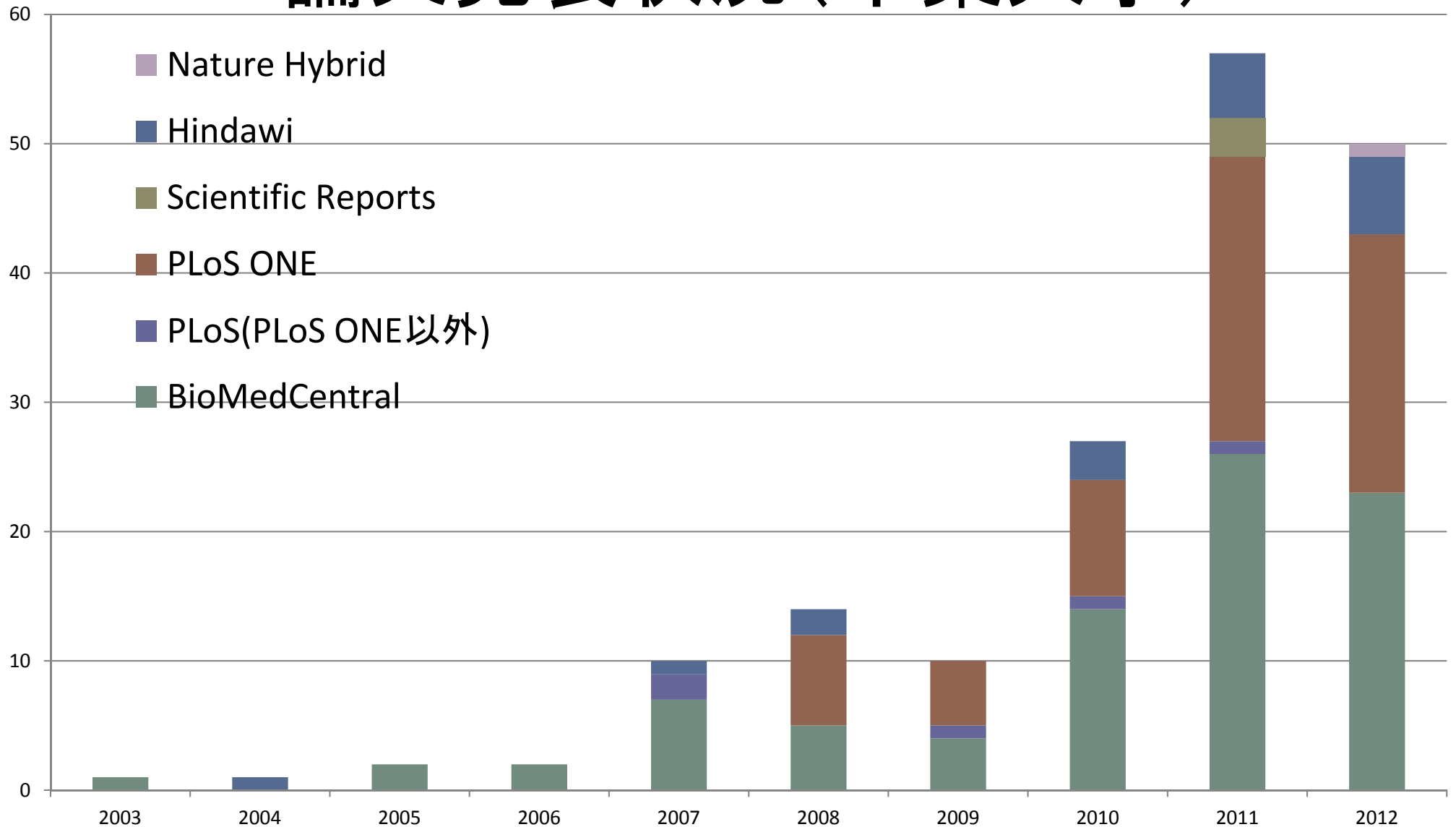


■ Overall article growth (3.5% per year, 2009 = 100%)

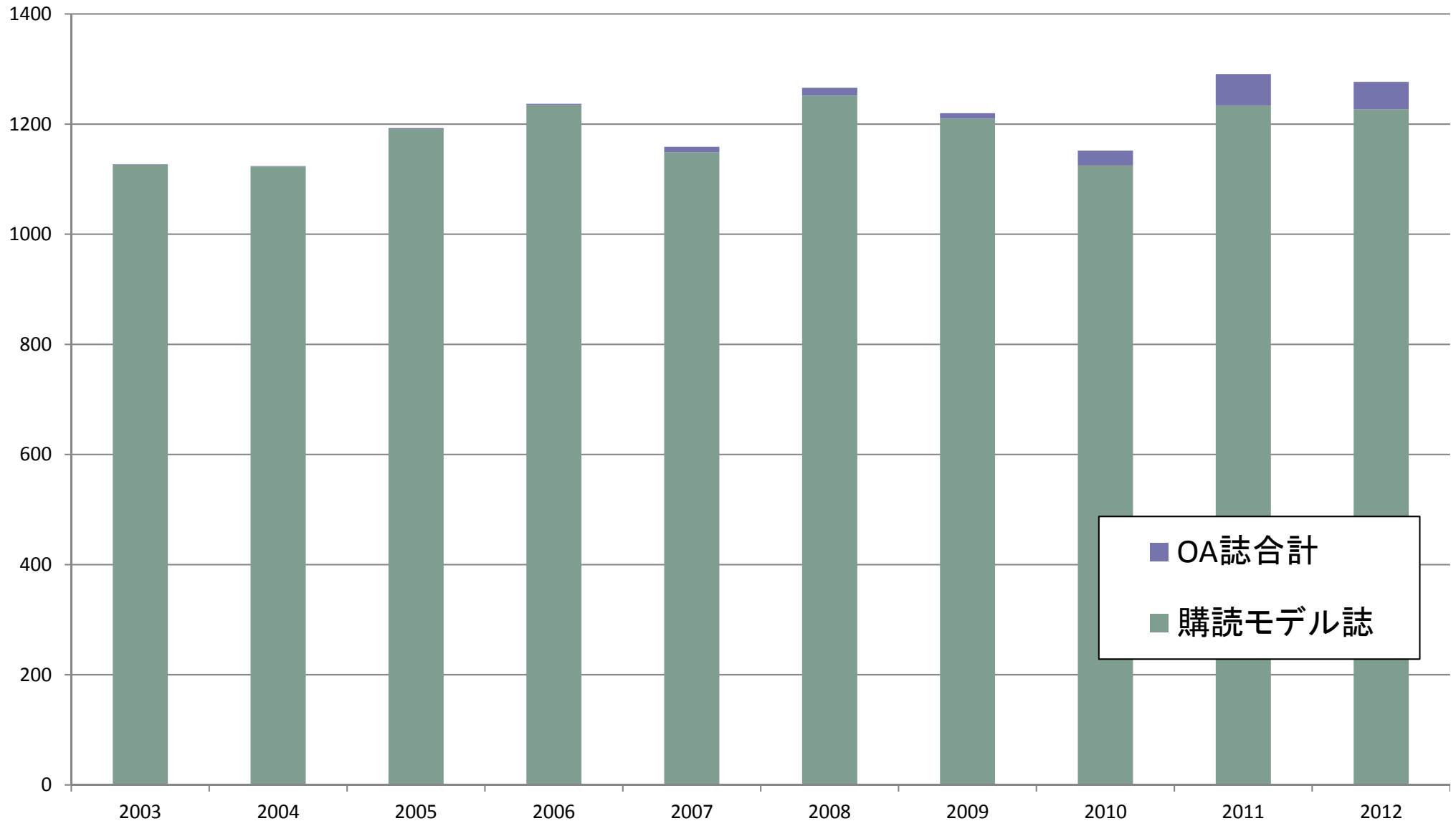
▲ Gold OA rate B (30% per year, Björk simulation)

● Gold OA rate S (20% per year, Springer)

代表的なオープンアクセス誌への 論文発表状況(千葉大学)



千葉大学からの論文発表におけるオープンアクセス誌の割合(千葉大学)



図書館業務へのインパクト



冊子体	有料電子ジャーナル	有料電子ジャーナル (ビッグディール)	OAジャーナル
選定	選定	選定	選定
契約	契約	契約	契約
目録	目録	目録	目録
受入	受入	受入	受入
支払	支払	支払	支払
供用	供用	供用	供用
ILL対応	ILL対応	ILL対応	ILL対応
製本	製本	製本	製本
保存	保存	保存	保存

APC関連事務?

学術雑誌受容における 大学図書館の役割の変化

- 紙出版時代
 - 来館利用(図書館=受容の拠点)
- 電子ジャーナル黎明期(選択購読の時代)
 - 図書館不要、ただしそこには「品揃え」だけはあった
- ビッグディール
 - 「雑誌危機」の鮮やかな解決、劇的な利便性向上
 - 学術情報流通の前線からの、大学図書館の退場
 - 大規模一括契約の単なる事務担当部局へ
 - オール・オア・ナッシングの綱渡り
- OAジャーナルの台頭
 - 図書館資料費の外でのコスト回収

「雑誌危機」

第2の「雑誌危機」?

新たな先行き不透明感

論点

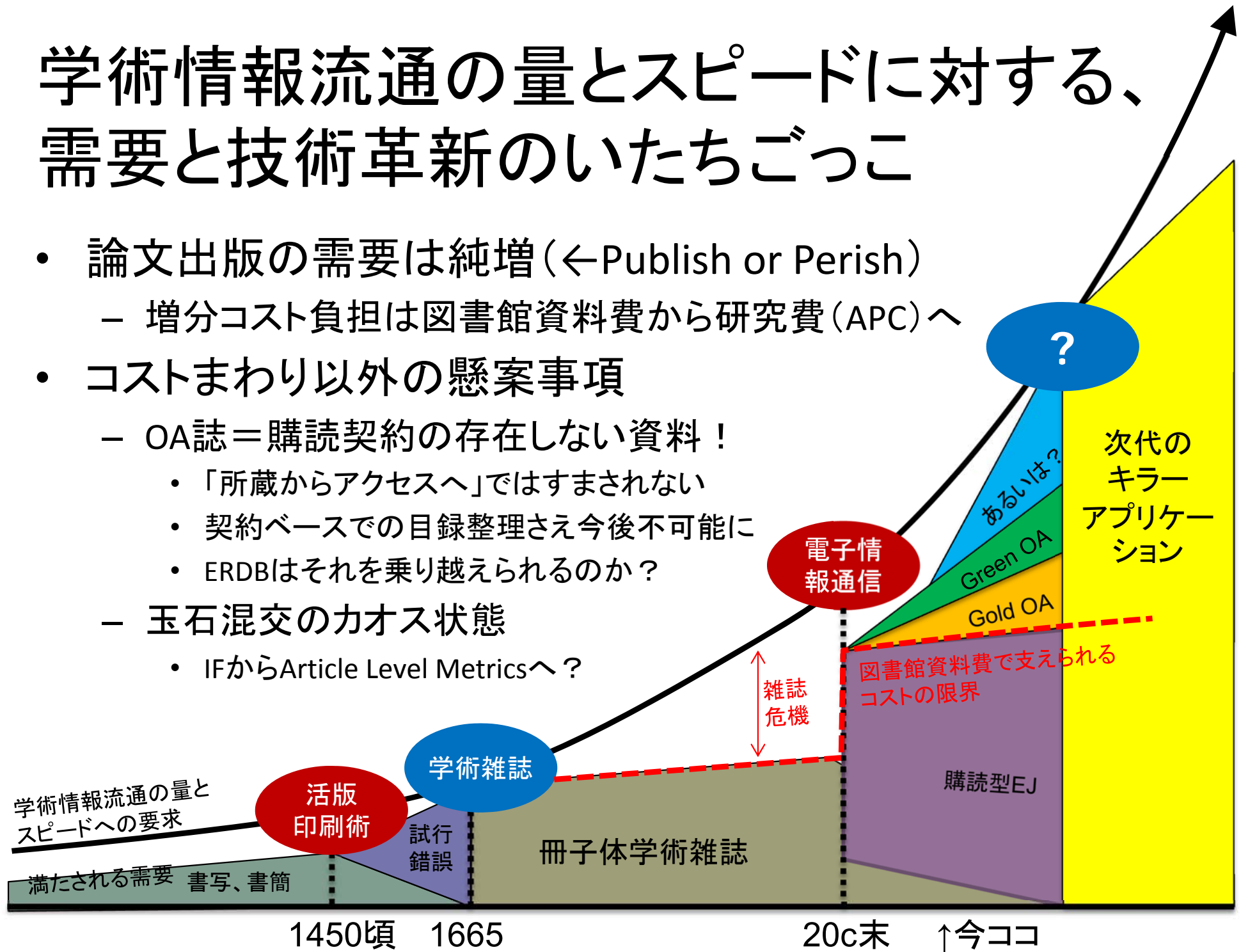
- 出版社にとって、(頭打ちの図書館資料費に比べて) **教員研究費は青天井の狩場**
- しかしまた **有料電子ジャーナルもこのまま残るに違いない**
 - 頭打ちとは言え、取れてるパイを手放すわけがない
 - (とくに現在の英国で表面化してきた)懸念は、オープンアクセス義務化方針に呼応して、ハイブリッドの **二重払い**が増すこと
- APCの **価格交渉努力**をする？
 - 平均APC2,500ドルで全てが著者負担OAになった場合
 - 年間3,000論文 × 2,500ドル = 約6億円(←購読料より安い?)
- APCの **支払代行、全容把握・管理**をする？
 - 1インボイスに対し、1時間の処理時間(英OAIG推定)
 - 年間3,000論文 ÷ 250営業日 = 1日12論文の処理が必要 = 1.5FTE
 - 共通経費化? → **当事者意識**の喪失 → モラルハザード

“setting the default to open”

- BOAI10 Recommendations (2012)
 - 10年間のOAの進展を踏まえた具体的な提言
 - 大学の研究成果公開方針、研究助成方針への実装
 - 再頒布、再利用等を含むライセンス拡張 (CC-BY 推奨)
 - 基盤整備 (Green/Gold、相互運用性確保、識別子体系、リンクング、論文レベル評価など)
 - 社会的環境整備、理解増進

学術情報流通の量とスピードに対する、 需要と技術革新のいたちごっこ

- 論文出版の需要は純増 (← Publish or Perish)
 - 増分コスト負担は図書館資料費から研究費 (APC) へ
- コストまわり以外の懸案事項
 - OA誌 = 購読契約の存在しない資料！
 - 「所蔵からアクセスへ」ではすまされない
 - 契約ベースでの目録整理さえ今後不可能に
 - ERDBはそれを乗り越えられるのか？
 - 玉石混交のカオス状態
 - IFからArticle Level Metricsへ？



1450頃

1665

20c末

↑今ココ

今後の展望と大学図書館の役割

- 電子情報流通というイノベーションに対するキラーアプリケーションは？
 - 活版印刷の発明から学術雑誌の誕生まで200年
 - 当分試行錯誤が続く→注視と舵取りが必要
- 学術コミュニケーションの主役は研究者（学術コミュニティ）
 - 研究者（**読者でありかつ著者**）を知り、理解すること
 - 研究生活（**入口から出口まで**）をトータルに支援

オープンアクセスウィーク

- オープンアクセスの日 (2007.2.15)
→2009年から週間に
- SPARC主宰
- 2013年は10月21日～27日



聖学院大学



大阪大学



金沢大学



旭川医科大学



OCTOBER 21 - 27, 2013 | EVERYWHERE

OPEN ACCESS: REDEFINING IMPACT.

情報源

- 土屋俊(2004). 学術情報流通の動向. 現代の図書館, 42(1)
 - http://svrrd2.niad.ac.jp/faculty/tutiya/Publications/pdf/04_01gendai.pdf
- Richard Poynder(2011). The Big Deal: Not Price But Cost. Information Today, 28(8)
 - 尾城孝一訳 ビッグディール: 価格ではなくコストの問題
http://www.nii.ac.jp/content/justice/documents/Big-Deal_Japanese.pdf
- 機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト
 - <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト>
- LIBLICENSE (英語)
 - <http://liblicense.crl.edu/>
- GOAL -- Global Open Access List (英語)
 - <http://mailman.ecs.soton.ac.uk/mailman/listinfo/goal>
- JISC-REPOSITORIES (英語)
 - <https://www.jiscmail.ac.uk/cgi-bin/webadmin?A0=jisc-repositories>